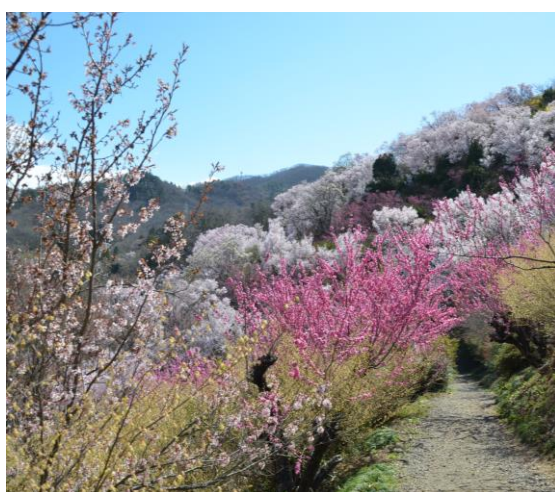


福島駅前交流・集客拠点施設整備基本計画



令和2年3月



福島市
FUKUSHIMA CITY

福島駅前交流・集客拠点施設整備基本計画 目次

はじめに	1	
第1章 計画策定の背景		
1 福島市が抱える諸課題	2	
2 文化・芸術振興による生活の質向上に向けた取組の必要性	6	
3 まちづくりに向けた機運の高まり ～ふくしまを元気に！新ステージへ～	6	
第2章 風格ある県都を目指すまちづくり		
1 風格ある県都を目指すまちづくり構想の策定	7	
第3章 施設整備基本方針		
1 福島市のポテンシャル(強みと弱み)	11	
2 施設のコンセプト	11	
3 施設整備の基本方針	12	
4 既存施設との連携・役割分担	13	
第4章 施設の構成と機能		
1 導入機能と規模	15	
2 施設配置の方針	16	
3 諸室計画	23	
第5章 期待される効果等及び概算事業費等		
1 目標稼働率と目標利用者数	27	
2 期待される効果	27	
3 概算事業費等	28	
第6章 管理運営の方向性		
1 管理運営の基本方針	31	
2 組織体制	32	
3 管理運営費	33	
第7章 本施設の効果的な活用		34
第8章 事業スケジュール		35
福島駅前交流・集客拠点施設整備基本計画 資料編		

はじめに

本計画は、本市が整備を目指す福島駅前交流・集客拠点施設(以下、「本施設」という。)について、そのコンセプトや導入する施設機能・規模、管理運営の方向性等について整理したものです。

本施設は民間の再開発事業者(福島駅東口市街地再開発準備組合)が整備を目指す商業・業務・宿泊等の機能が複合する再開発ビル内に整備を予定しています。

JR福島駅至近という好立地を活かし、土地の高度利用や都市機能の更新を図る観点から市街地再開発事業手法を活用することで、コンベンション・商業・業務・宿泊・バンケット機能等を一体的・複合的に整備することが可能となり、各機能の相乗効果が期待されます。

また、複合施設とすることにより、エントランスや通路、設備等の一部については共用化も想定されることから、イニシャル・ランニングコストにおいても縮減効果が期待されます。

再開発事業者は、本計画を踏まえ、本市と連携・協議をしながら本施設を含む再開発ビル全体の設計・施工を行います。

本市は、本計画の内容が再開発事業者の進める設計・施工に適切に反映されていることを随時確認するとともに、専門家からのアドバイス等を踏まえながら意見を行い、本施設の取得を予定するものです。

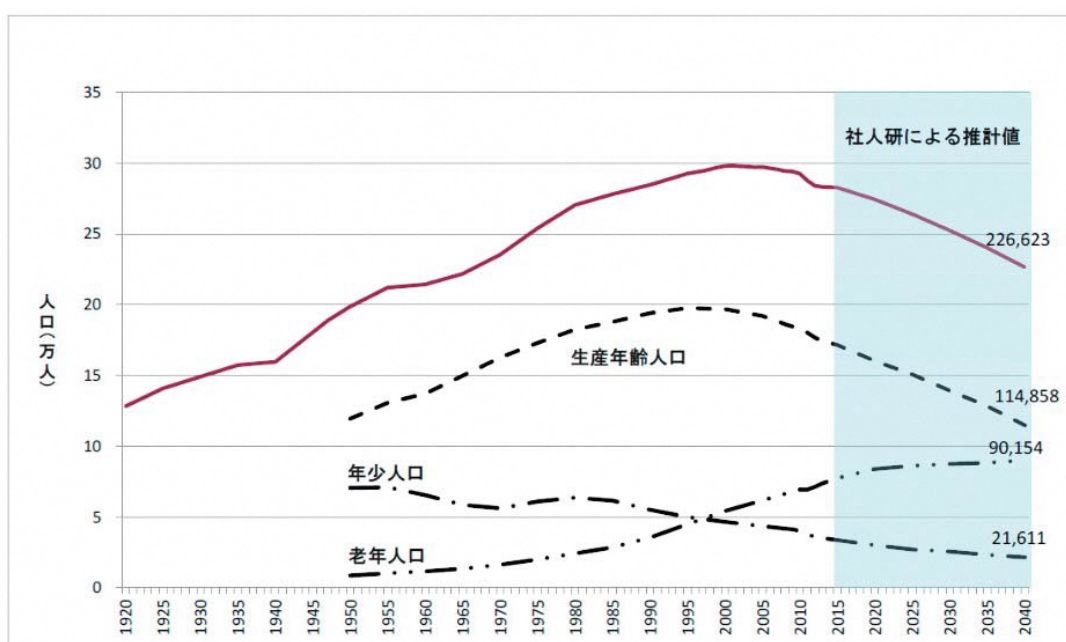
第1章 計画策定の背景

1 福島市が抱える諸課題

(1) 人口減少、少子高齢化

我が国では、これまで世界でも経験したことがない急激な人口減少と少子高齢化が進展しています。本市の人口も2040年には2010年の人口の77%に減少し、約22万6千人になると推計されています(「福島市人口ビジョン・総合戦略」より)。今後において、生産年齢人口・消費者の減少による経済活動の停滞や、個人市民税等の税収の減少、高齢者の増加による社会保障費の増大等、多くの影響が考えられます。

【福島市の人口の推移】



出典：福島市人口ビジョン・総合戦略(平成27年10月)

2015年から2040年まで国立社会保障・人口問題研究所推計手法に準拠し行った推計

これまでのような人口増加を背景とした経済成長を期待することは困難であることから、近年、多くの自治体が、「交流人口」の拡大に力を入れています。とりわけ、大きな経済波及効果を見込めるMICE(※)誘致に向けて、施設の整備・増設を行っている自治体が多く見られる状況であり、都市間競争が激化していると言えます。また、国は、移住による「定住人口」でもなく、観光による「交流人口」でもない、地域と多様に関わる者である「関係人口」に着目し、その創出・拡大に力を入れています。この様な国の動きに呼応して、各自治体は、ファンづくり事業等、地域外の者が「関係人口」となる機会・きっかけづくりに取り組んでいます。さらに、個々の自治体が、教育、福祉等の公共サービスを提供する施設を自ら整備し運用するこれまでのフルセット主義から脱却し、各自治体が有する強みやスケールメリットを最大限活用するとともに、弱みを補完し合いながら可能な範囲で柔軟に連携する広域連携の取組も広がっています。

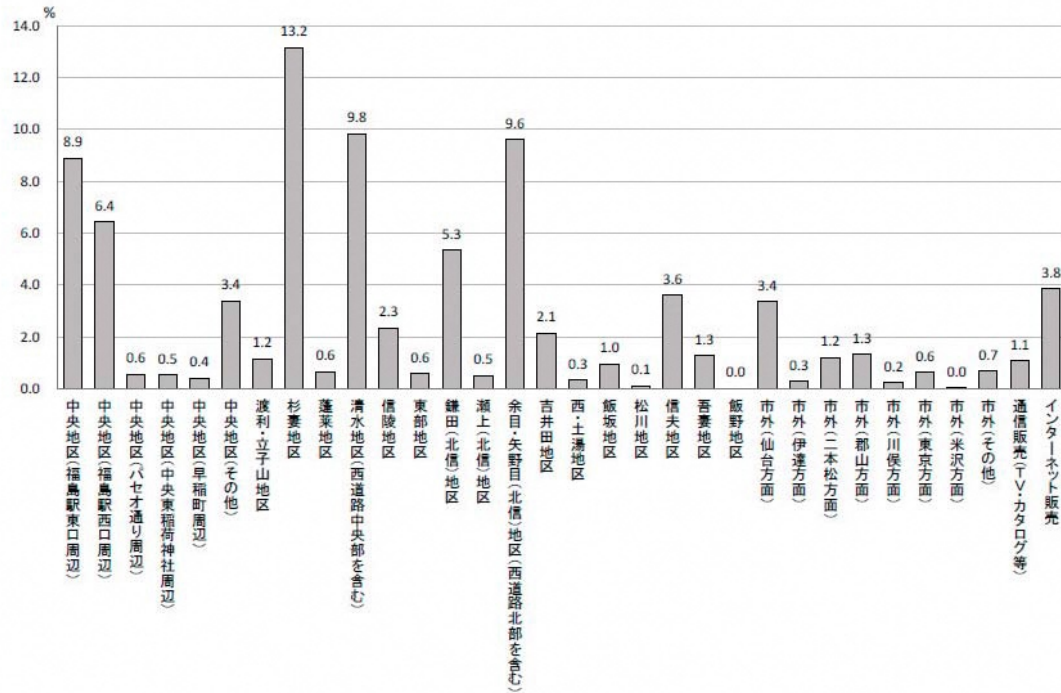
本市も、新たな活路を見い出しながら、まちの活力を維持・増強していく必要があります。

※ MICE 多くの集客を見込めるビジネスイベント等の総称で、Meeting(企業内会議)、Incentive travel/tour(報奨旅行)、Convention(国際会議・学術会議)、Event/Exhibition(イベント/展示会)の頭文字をとった造語

(2) 中心市街地の空洞化

国公立大学の郊外移転や、モータリゼーションの進展に伴う大規模小売店の郊外進出、インターネットによる通信販売の急速な進展、消費者のライフスタイルの変化やニーズの高度化・個性化等の影響により、中心市街地では商業施設や宿泊施設等の閉店による空洞化が進み、まちのにぎわいが失われつつある状況です。

【全買物品目における買物場所】



出典：第14回福島市消費購買動向調査結果報告書(平成30年3月)

【調査年次別買物場所利用率の推移】

単位：%

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
平成14年度	中央(駅東口周辺)15.8	清水13.0	杉妻、余目・矢野目(北信)11.2		中央(駅西口周辺)9.3
平成17年度	杉妻14.5	余目・矢野目(北信)12.6	清水11.9	中央(駅東口周辺)11.7	中央(駅西口周辺)8.2
平成20年度	余目・矢野目(北信)12.8	杉妻11.6	清水11.3	中央(駅東口周辺)11.1	中央(駅西口周辺)8.2
平成23年度	杉妻12.2	余目・矢野目(北信)12.0	中央(駅東口周辺)、清水10.3		中央(駅西口周辺)6.4
平成26年度	杉妻13.2	余目・矢野目(北信)11.5	中央(駅東口周辺)10.5	清水9.8	中央(駅西口周辺)7.3
平成29年度	杉妻13.2	清水9.8	余目・矢野目(北信)9.6	中央(駅東口周辺)8.9	中央(駅西口周辺)6.4

買物12品目

外出着、ふだん着、下着、靴・鞆・ハンドバッグ、化粧品・医薬品、時計・カメラ・眼鏡・貴金属、スポーツ・レジャー用品、家具・室内装飾、家庭電化製品、書籍・CD・文具、食料・嗜好品、家庭・園芸・ペット用品

出典：第14回福島市消費購買動向調査結果報告書(平成30年3月)

このような状況下では、中心市街地における商業施設等の供給促進を期待することは困難であり、むしろ、更なる商業施設等の減少と、それに伴う人の流れの減少が危惧されます。中心市街地は、本市のみならず県都の顔でもあることから、このようなマイナスのスパイラルを断ち切って、にぎわいを回復させなければなりません。

そのためには、官民が一体となって中心市街地に人を集める仕組みを作ることが重要です。

人の流れが生まれることで商業機能への投資や経営の安定化が図られ、まちの活力が生まれるものと考えられます。

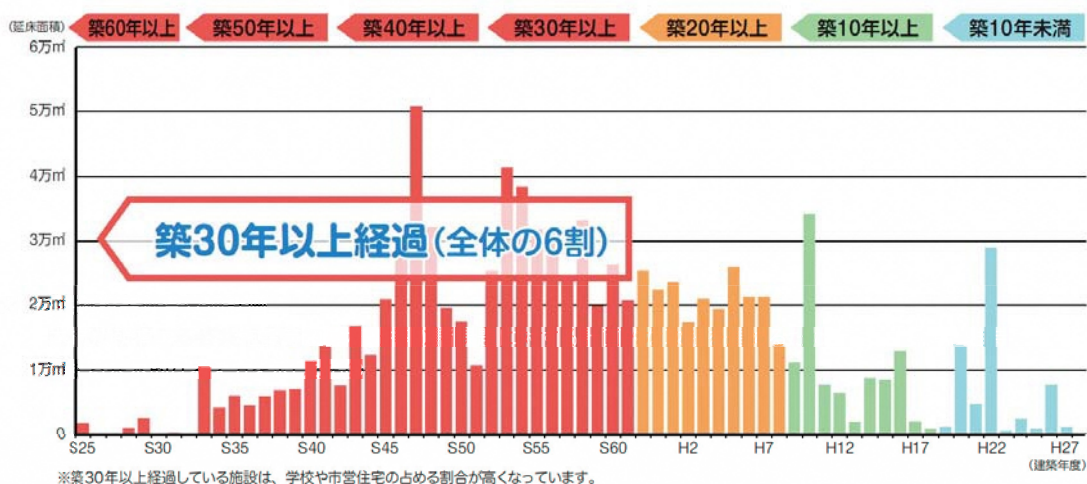
(3) 公共施設の老朽化

本市では、築30年以上経過した公共施設が全体の6割を占めるなど公共施設やインフラ資産の老朽化が進んでおり、今後一斉に建て替えや改修の時期を迎えます。中心市街地においても、市民会館(昭和46年竣工)や平成30年3月末より休館している公会堂(昭和34年竣工)等、多くの市民利用施設で老朽化が進んでおり、福島市公共施設等総合管理計画(※)を踏まえた老朽化対策が必要となっています。

※ 福島市公共施設等総合管理計画

本市が所有する公共施設等の老朽化等の諸課題に対する計画的な取組を進めるため、適切な保有と維持管理等に関する基本的な考え方を示したもの

【公共施設の建築年度別整備状況】



出典：福島市公共施設等総合管理計画(平成29年2月)

①公会堂

本市の集客施設の中核として長年親しまれてきたシンボリック施設で、演劇や舞台の鑑賞会、各種講演会をはじめ、市民芸術活動の発表の場として多くの団体等に利用されてきましたが、老朽化により平成30年3月末をもって休館しています。

■施設概要

建築概要	SRC造、地上3階地下1階建て	
所在地	福島市松木町1番7号	
延床面積	4,259.08㎡	
建築年	昭和34年	
アクセス	JR福島駅から徒歩約15分。 市内循環バス「新浜公園」停留所より徒歩5分。	
施設機能	ホール(1,273席)、楽屋、控室、応接室等	

②市民会館

本市の基幹的な集会・研修施設で、市民のサークル活動や会議の場として幅広く利用されています。耐震性が不足しており老朽化が問題となっています。

■施設概要

建築概要	RC造、地上6階建て	
所在地	福島市霞町1番52号	
延床面積	6,547㎡	
建築年	昭和46年	
アクセス	JR福島駅から徒歩約20分。 市内循環バス「附属小学校前」停留所より徒歩1分。	
施設機能	多目的ホール2室(440㎡、288㎡)、会議室、和室、音楽室、茶道室、華道室、茶室等	

2 文化・芸術振興による生活の質向上に向けた取組の必要性

個人の価値観やライフスタイルが多様化するとともに、文化・芸術が有する地域コミュニティの創造と再生の機能により、地域の発展が支えられてきた点が注目されるなど、人々の文化・芸術に対する関心が高まっています。

本市は、これまでに築き上げてきた歴史や、豊かな自然の中ではぐくまれた福島ならではの文化をさらに輝かせ、新たなまちづくりに取り組むことで、市民が誇りと愛着を持って住み続けたいまちを目指します。

3 まちづくりに向けた機運の高まり ～ふくしまを元気に！新ステージへ～

本市は、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を契機とするまちづくりと大会レガシーの創出や、本市の名誉市民である古関裕而氏を活かしたまちづくりの推進、新まちなか広場の整備に向けた取組等を進めています。

また一方では、東北中央自動車道の開通や、福島駅東口地区において、福島県立福島医科大学保健科学部が令和3年4月に開校予定であるほか、民間による市街地再開発事業により商業、業務、宿泊、住居等の機能整備が予定されているなど、高次の都市機能を集積し、新ステージへ向け飛躍する絶好の機会が訪れています。

第2章 風格ある県都を目指すまちづくり

1 風格ある県都を目指すまちづくり構想の策定

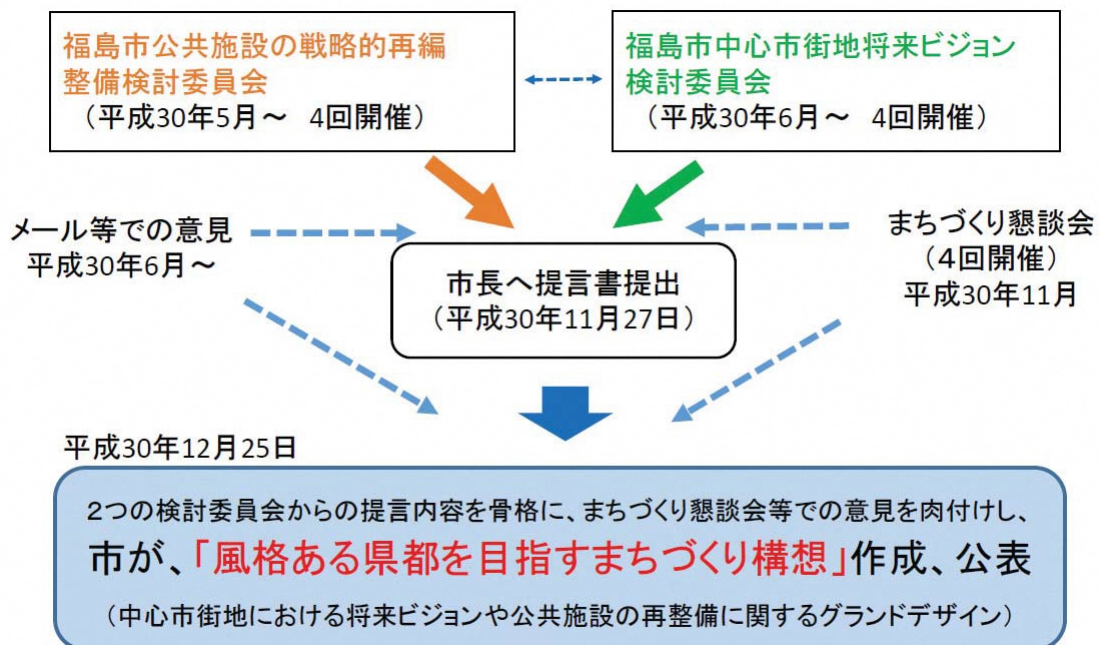
まちづくりに向けた機運の高まりや先に述べた諸課題を踏まえ、本市は、平成30年に「福島市公共施設の戦略的再編整備検討委員会」と「福島市中心市街地における将来ビジョン検討委員会」の2つの委員会を設置しました。両委員会では、それぞれ、中心市街地に立地する老朽化した公共施設の再編整備の基本的な方向性や、中心市街地のにぎわい形成に向けた高次の都市機能の配置等について検討が行われました。

本市は、両委員会から提言書の提出を受け、平成30年12月に、中心市街地における将来ビジョンや公共施設の再編整備に関するランドデザインとして基本的な方向性を示す「風格ある県都を目指すまちづくり構想」（以下、「まちづくり構想」という。）を策定しました。

本市が将来的にも持続的な発展をしていくためには、中心市街地を県都にふさわしい魅力あふれる広域的な拠点として県北全体さらには県下全体に貢献できるまちづくりを進める必要があります。

そのため、福島駅前エリアにおいて、市民の文化芸術活動での利用も念頭においたコンベンション機能の強化を図りながら、福島らしさを活かすことができる新たな交流・集客拠点施設を整備することとしました。整備にあたっては、福島駅東口地区市街地再開発事業と連携を図るとともに、福島市公共施設等総合管理計画を踏まえ、公会堂の機能と市民会館の機能との統合によるものとしました。

【まちづくり構想策定までの経過】

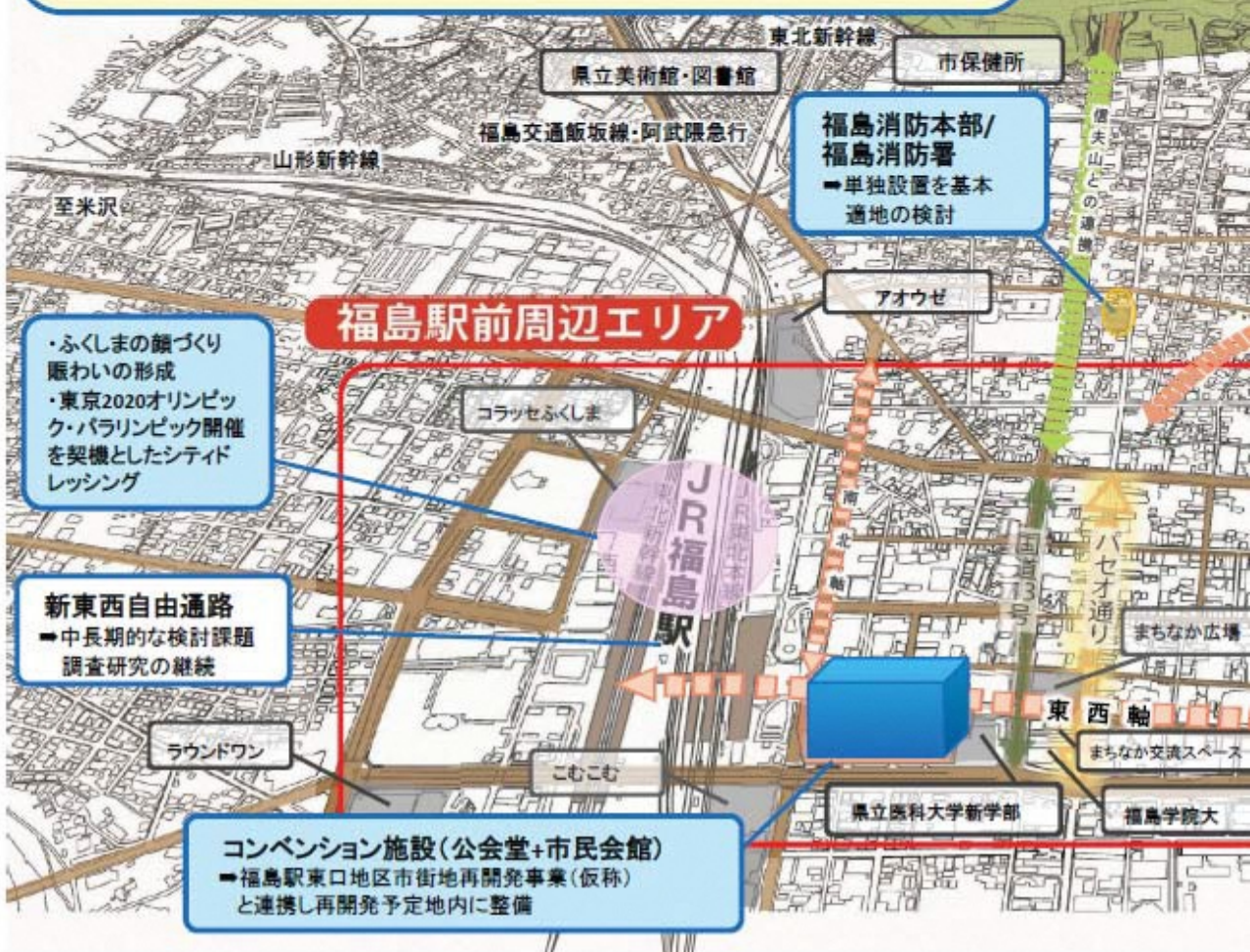


風格ある県都を目指

■ 基本的な考え方 ■

県北全体さらには県下全体に貢献できる風格ある県都を目指し、以下の5つを基本方針にまちづくりを推進します。

- (1) 広域的な拠点地区として活力のあるまちづくりを推進します
- (2) 魅力的で賑わいのあるまちづくりを推進します
- (3) まちを楽しみ、すごせるシンボル軸・回遊空間づくりを推進します
- (4) 快適で住みやすいコンパクトなまちづくりを推進します
- (5) みんなが参画し、連携するまちづくりを推進します



すまちづくり構想



【 福島駅前周辺エリアの方向性 】

①福島駅前周辺エリアの位置づけ

- ・福島駅前周辺エリアを都市機能の強化に重点的に取り組むエリアに位置付ける。
- ・福島駅前周辺エリアにおいては、市民生活向上と文化の発展と県北全体の定住化、活性化の拠点形成を目指し、土地の高度利用や高次の都市機能の集積・強化を図る。とりわけ、市外・県外から多くの人を呼び込み、多様な交流とにぎわいの創出を図るため、官民連携によるコンベンション機能の強化を図る。

②官民連携によるコンベンション機能の強化

- ・コンベンション機能の強化にあたり、全ての機能を行政側で整備することは困難であることから、官民の連携・役割分担による施設整備を行う。
- ・市は、福島駅東口地区市街地再開発事業と連携し、公会堂の機能及び市民会館の機能(施設近隣利用者向けの会議室機能等を除く)の統合による新たな交流・集客拠点施設の整備を目指す。
- ・整備に向けては、市民の文化芸術活動での活用も念頭に置いた適切な機能・規模等の調査検討を行う。
- ・会議室機能の一部やバンケット機能、宿泊機能等については、福島駅東口地区市街地再開発事業において民間による整備を目指す。

③シンボル軸及び回遊性の強化

- ・福島駅前周辺エリアの東西のシンボル軸、南北の各ストリート等において、花や音楽等、本市の個性を生かしながら、文化的で美しい街並みや歩行空間を形成し、回遊性の強化を図る。
- ・各ストリート等の特色に合わせた個性的な街並み景観の形成や店舗等の集積を図るとともに、安全で快適に過ごせるバリアフリーな環境づくりを進める。

第3章 施設整備基本方針

1 福島市のポテンシャル(強みと弱み)

(1)本市の強み

本施設の整備にあたり、様々な本市の強みを活かすことが重要です。平成30年度に設置した福島市公共施設の戦略的再編整備検討委員会における議論の経過や、福島駅前交流・集客拠点施設整備基本計画策定委員会の検討において、本市の強みを次のとおり整理しています。

- ①交通の要衝であり、首都圏からもアクセス良好であること
東北新幹線、東北自動車道、東北中央自動車道
- ②四季を感じる豊かな観光資源があること
花見山、3温泉地(飯坂温泉、土湯温泉、高湯温泉)、浄土平、信夫山 等
- ③大学が集積し、質の高い教育を提供していること
福島大学、福島県立医科大学、福島学院大学、福島学院短期大学部、桜の聖母短期大学
- ④福島県の県都であり、多くの官公庁等が集積していること
- ⑤浜通り地域等における福島イノベーション・コースト構想の玄関口であること

(2)本市の弱み

本市の弱みについては次のとおり整理しています。

- ①商圏として独立した都市圏ではなく、規模が小さい(福島市は仙台商圏の一部)
- ②宿泊環境の不足
- ③関係者が一体となった MICE の誘致体制・受け入れ体制が確立されていない

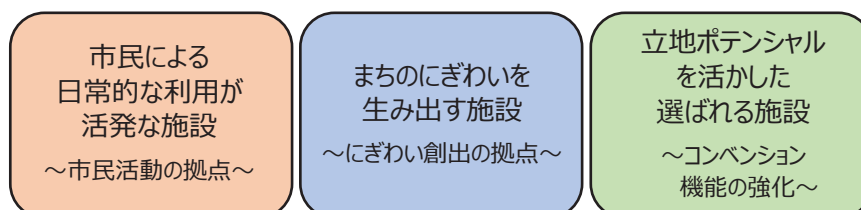
2 施設のコンセプト

本施設は、本市の集客施設の中核として長年親しまれてきたシンボル施設である公会堂と市民会館に替わる施設として、市民の文化芸術活動等を促進するとともに、コンベンション機能の強化を図ることによって交流人口や関係人口等を拡大し、中心市街地のにぎわいを取り戻す役割を担っています。

このような本施設の役割や本市のポテンシャル、まちづくり構想を踏まえ、本施設のコンセプトを次のとおり設定します。

多様な交流・にぎわいを創出するふくしまコンベンション

【コンセプトを実現するための3本の柱】



3 施設整備の基本方針

コンセプトを踏まえ、以下の基本方針により施設整備を進めます。

(1) 市民による日常的な利用が活発な施設 ～市民活動の拠点～

本施設は、公会堂と市民会館という市民利用施設の機能の統合により整備することから、市民団体・サークル等による会合や創造・創作を含む文化活動、生涯学習活動等に利用できる施設とします。また、まちとのつながりを重視し、日常的に市民が気軽に立ち寄り過ごせるような、身近に開かれた施設を目指します。

(2) まちのにぎわいを生み出す施設 ～にぎわい創出の拠点～

ホールツアーコンサートやグルメイベント、物産展、サブカルチャーイベント、各種展示会等の既存施設ではこれまで開催が困難であった鑑賞型・参加型の集客力のあるイベント等の開催が可能となる施設とし、市民が様々な芸術に触れる機会を拡充します。

また、こうしたイベント等の開催によって、駅前商店街や商業機能との相乗効果が生まれることも期待されます。

(3) 立地ポテンシャルを活かした選ばれる施設 ～コンベンション機能の強化～

新幹線停車駅であるJR福島駅至近の好立地と、複合ビルとして整備される予定の宿泊、バンケット、商業機能等を一体的に提供できる強みを活かし、様々な団体等が主催する大会や学会会議等を開催できる施設とします。既存施設では開催が困難であった比較的規模の大きな会議等についても、受け入れが可能となる施設を目指します。

(4) 文化・芸術振興による生活の質向上に寄与する施設

本施設において幅広い世代の人々が、充実した文化・芸術活動を行うことで、生活の質向上や地域コミュニティの創造、地域の発展を支える施設を目指します。

(5) 福島魅力を伝え、福島らしさを表現する施設

本施設を整備するにあたっては、市民はもとより、市外・県外から来訪する方々に対し、福島らしさを感じ取っていただき、福島ファンになっていただくための様々な工夫が必要です。

本市には、花見山をはじめとして、花ももの里や花やしき公園、信夫山、大森城山公園等、数多くの花の名所があります。また、夏から秋にかけても多様な花々を楽しむことができます。

本施設は、多様な交流とにぎわいを創出する拠点として、JR福島駅前に立地する県都の顔となる施設であることから、駅前通りの景観等との調和を図りながら風格ある県都のシンボルにふさわしい外観等に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面において、例えば福島「花」の魅力表現するなど、工夫を図ります。

(6) 使いやすく誰にでもやさしい施設

本施設内の各機能については、小規模催事での独立利用や大規模催事での一体利用の両面で、利用者・主催者にとって使いやすい施設として計画します。また、高齢者や障がい者、子育て世代、子ども、さらには外国人を含め、全ての人が快適に利用できるようバリアフリーに十分配慮し、誰にでもやさしい施設とします。

(7) 将来を見据えた適正な規模の施設 ～公共施設等総合管理計画の視点～

本施設は、公会堂と市民会館の機能の統合によるものであることから、両施設の過不足していた機能等を精査し、公共施設等総合管理計画の基本方針である「経営的視点による総合的かつ計画的な管理」「施設総量の縮減」等を踏まえながら、真に必要な機能や規模について検討を行い、将来の人口動向からも適正な規模の施設とします。

また、施設利用者(主催者等)の利便性・満足度を高める取組や、積極的な催事の誘致・企画、民間ノウハウの活用を図りながら、多くの方々に利用される施設を目指します。

(8) 安心・安全な施設

近年の災害発生状況を踏まえ、大規模な地震が発生した場合にも安全な耐震性能を備えるとともに、火災が発生した場合等に短時間で安全に避難できる建物構造を確保します。また、災害時において帰宅困難者等の一時的な受け入れも可能な施設とします。

4 既存施設との連携・役割分担

中心市街地には、次頁のとおり複数の公共ホールが立地しています。このうち、福島駅周辺の大ホール機能としては、子どもの夢を育む施設こむこむ(296席)、福島テルサ(480席)があり、イベント・展示ホール機能としては、コラッセふくしま(369㎡)、アオウゼ(403㎡)がありますが、いずれも比較的小規模なものです。

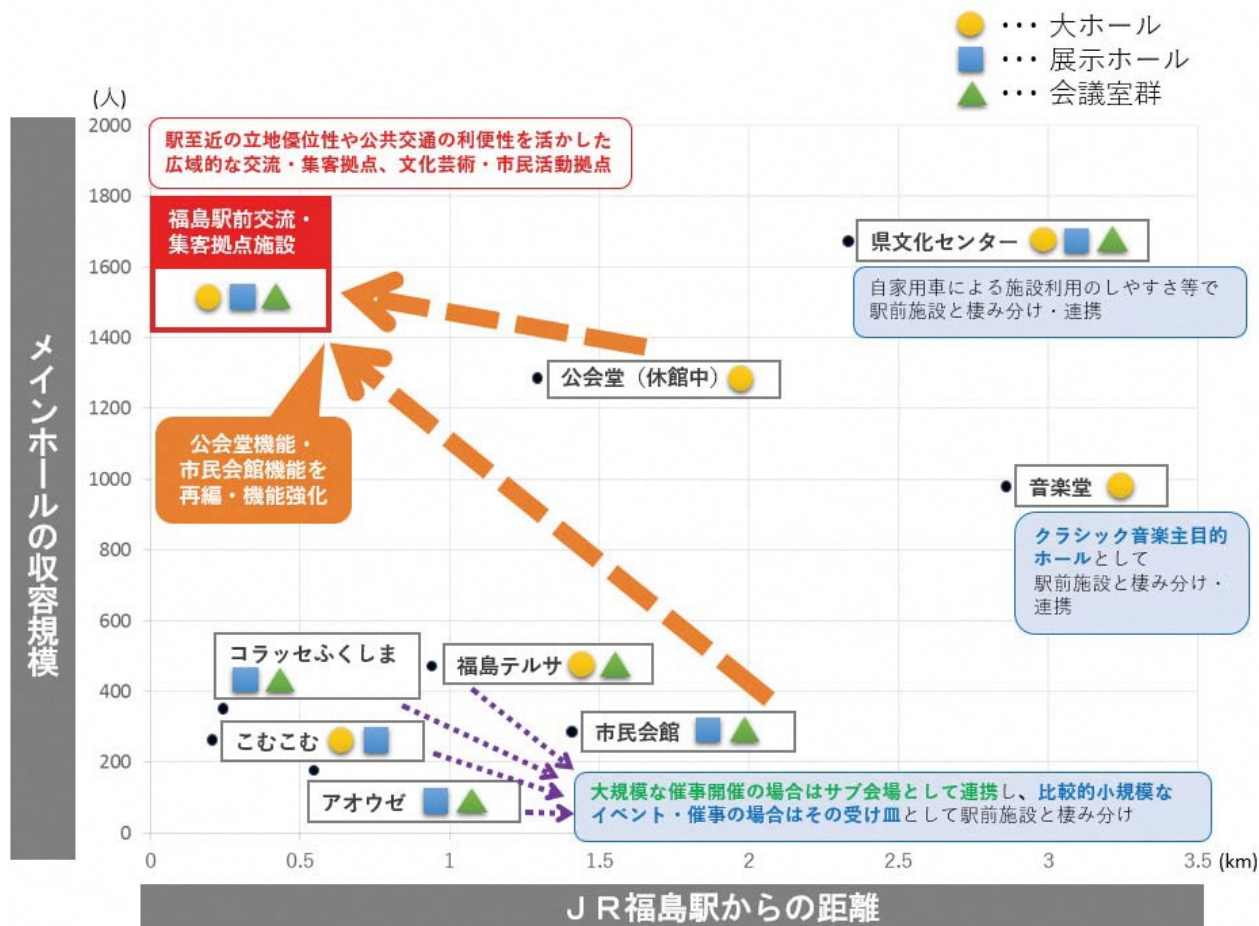
本施設は、新たな需要(催事)に対応可能な施設とするとともに、とりわけ福島駅周辺の既存施設との連携・役割分担についても考慮する必要があります。

そのような視点からは、例えば、本施設に整備する大ホールとイベント・展示ホール機能を比較的規模の大きなメイン会場となりえるものとするにより、大規模な催事が開催される場合に福島駅周辺の既存施設をサブ会場として連携を図ること等が考えられます。

また、音楽堂は豊かな音の響きを重視するクラシック音楽を主目的とするホールであることから、本施設に整備する大ホールについては、クラシック音楽以外のものを主たるターゲットにするといった役割分担が考えられます。

【 中心市街地の主な公共ホール(規模・機能) 】

施設名	設置主体	延べ床面積	展示ホール	大ホール	会議室群	その他
コラッセふくしま	市 県	21,226 m ²	369 m ² 288 m ²	—	9 室	和室 2 室等
A・O・Z (アオウゼ)	市	5,684 m ²	403 m ²	—	5 室	活動室、和室等 12 室
福島県 文化センター	県		500 m ² × 2 室	1,752 席	2 室 計 466 m ²	和室、楽屋、リハーサル室、視聴覚室等
福島市音楽堂	市	7,786 m ²	—	1,002 席	—	練習室、楽屋等
子どもの夢を育む施設こむこむ	市	9,886 m ²	約 180 m ²	296 席	—	楽屋、学習室、和室等
福島テルサ	市	9,649 m ²	—	480 席	4 室 計 406 m ²	音楽室、楽屋、和室、研修室、ギャラリー、カフェ、レストラン、トレーニングジム、温水プール、情報コーナー

【 中心市街地の主な公共ホール(JR 福島駅からの距離) 】


第4章 施設の構成と機能

1 導入機能と規模

多様な交流とにぎわいを創出するという本施設のコンセプトや施設整備の基本方針等を踏まえ、公会堂の大ホール機能と市民会館のイベント・展示ホール機能を拡充するとともに、スタジオ(練習室)や会議室等の諸室をバランス良く備えたワンストップ型のコンベンション施設として機能強化を図ります。

また、スタジオ(練習室)や会議室等の諸室の多機能化・兼用化、民間で整備するバンケット機能との役割分担・連携等によって面積増を抑制する工夫を行い、共用空間を除いた本施設全体の規模を約13,000㎡とします。

(1)大ホール機能

市民団体・サークル等による音楽や演劇・舞踊等の発表・コンクールや、著名なアーティスト等の興行による音楽コンサート・演劇・舞踊等の公演、さらには、これまで開催することが困難であった2,000～3,000人規模の大会・学会での全体会等としての利用を想定し、概ね1,500席程度の大ホールを整備します。

(2)イベント・展示ホール機能

グルメイベントや物産展等の福島駅至近の立地条件を活かした集客力のあるイベントや、大会・学会等でのポスターセッション(ポスター・写真等を用いた研究発表)、展示会等での利用を想定し、ホワイエを含め概ね1,500㎡程度のイベント・展示ホールを整備します。

(3)練習室・会議室機能

市民団体・サークル等による会合、創造・創作を含む文化活動、生涯学習活動、大会・学会での分科会等での利用を想定し、スタジオ(練習室)や中小規模の会議室を整備します。

構成	機能	面積(㎡)
大ホールエリア	舞台、客席(1,500席程度)、ホワイエ、楽屋、倉庫等	約 7,000
イベント・展示ホールエリア	ホール(ホワイエを含め 1,500㎡程度)、ホワイエ、控室、倉庫等	約 3,000
練習室・会議室等エリア	スタジオ(練習室)、リハーサル室、会議室等	約 2,000
その他	事務室、機械室、搬入搬出ヤード等	約 1,000
合 計		約 13,000

2 施設配置の方針

福島駅東口地区市街地再開発事業においては、本施設に加えて、「商業」、「業務」、「宿泊」等の機能を複合化する予定です。これらの異なる施設を整備予定地内に効果的に配置するため、次の点に留意して本施設の配置を整理します。

(1) 本施設

敷地規模の関係から、施設機能をコンパクトに集約し、複層に配置します。また、商業機能の低層階への配置を重視し、本施設は4Fから7Fの上層階に配置することとします。

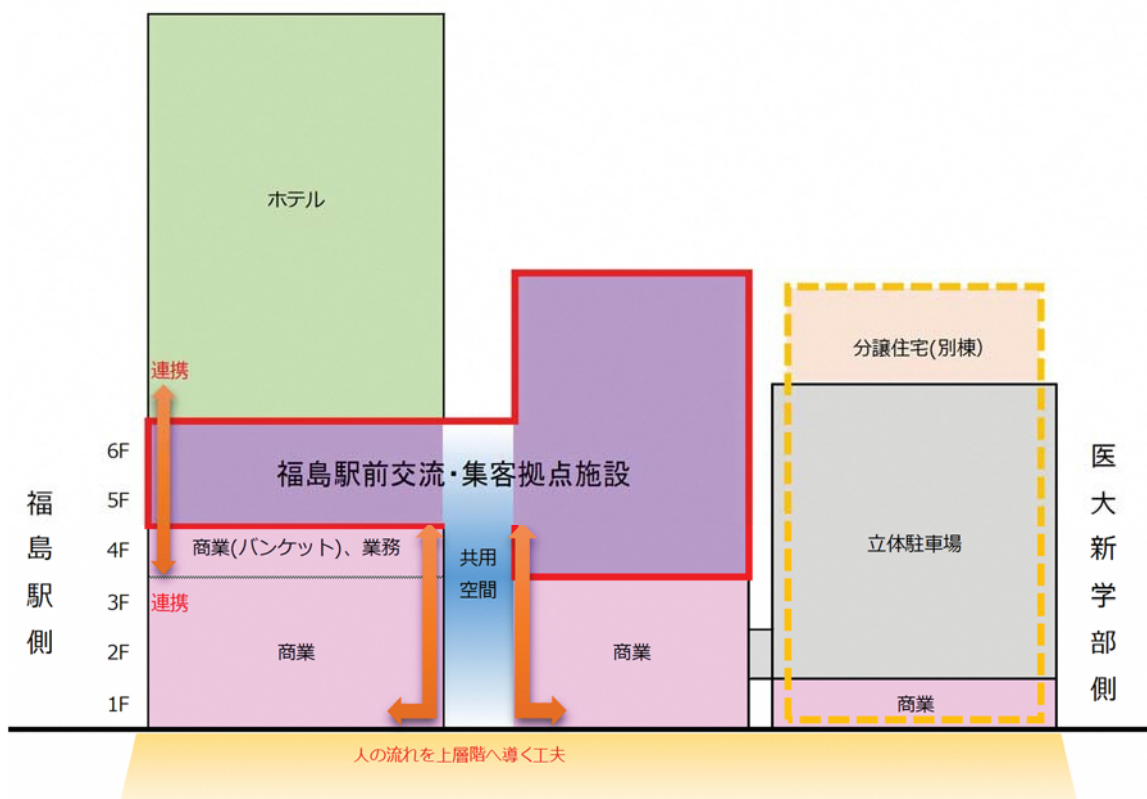
(2) 商業施設

中心市街地のにぎわい創出やまちなかの回遊性の強化を図る観点から、駅前通り沿いの1Fから4Fに中心市街地の中核となる商業機能を配置します。

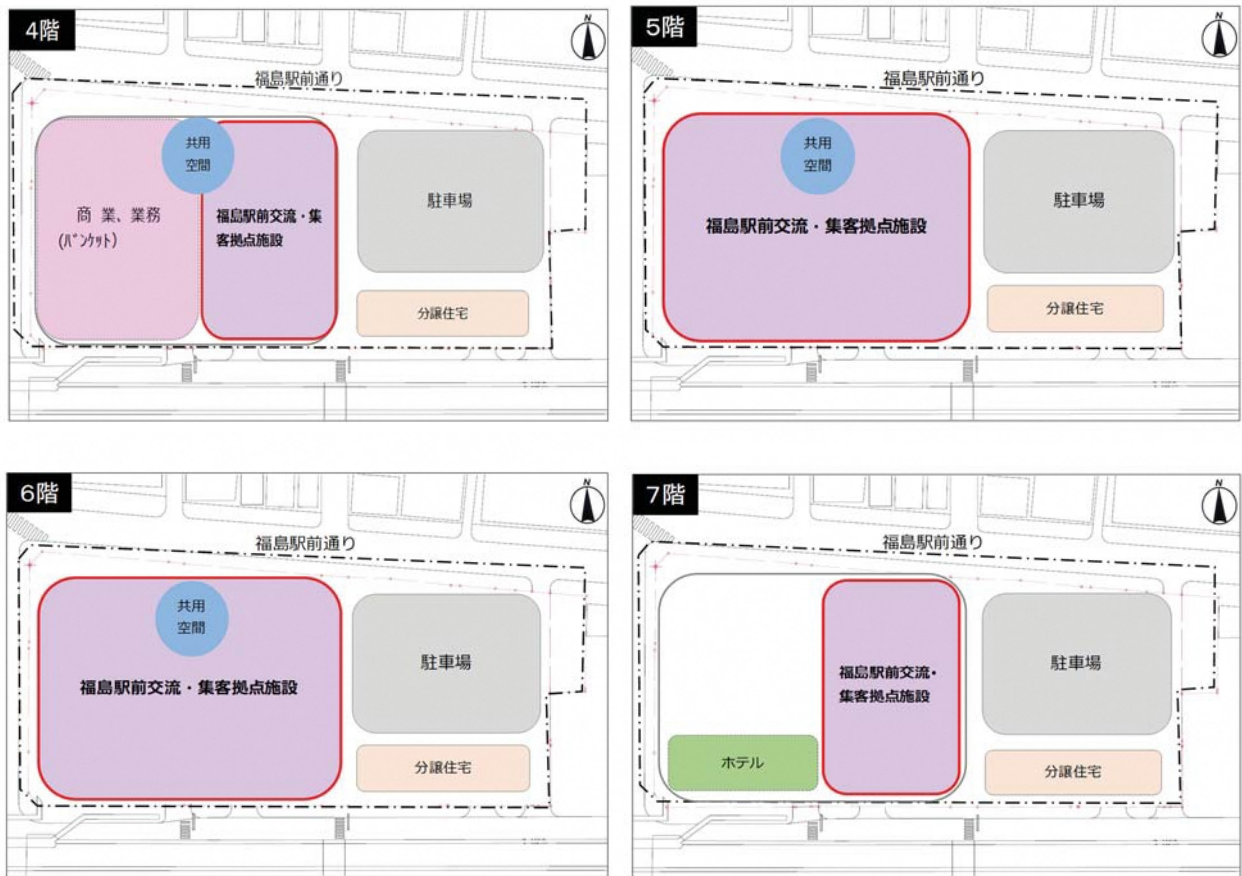
(3) 共用空間

本施設と商業施設等が分断されることなく、人の流れを生み出す動線が重要であることから、各施設の中継地点となり、市民に開かれた共用空間を形成します。

【 再開発ビル全体の断面イメージ 】



【 本施設の平面イメージ（4～7階）】

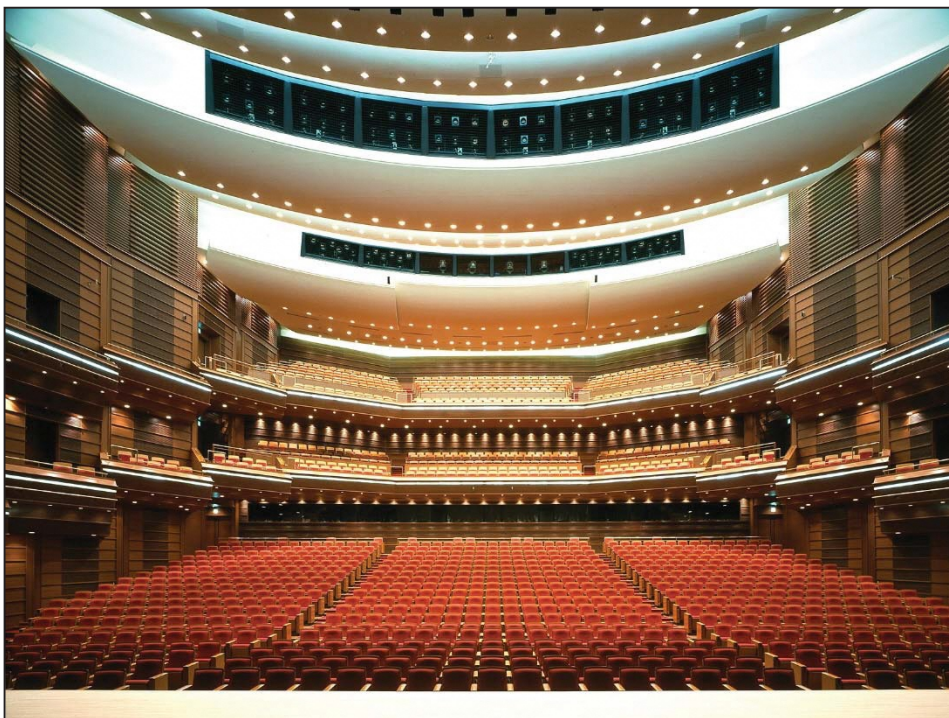


各施設機能の具体的なフロア配置等については、今後、基本設計等において具体化していきます。なお、建築基準法・消防法等の関係法令等に関する検討により、本計画の内容と異なる部分が生じる可能性もあります。

(1)大ホール機能の配置

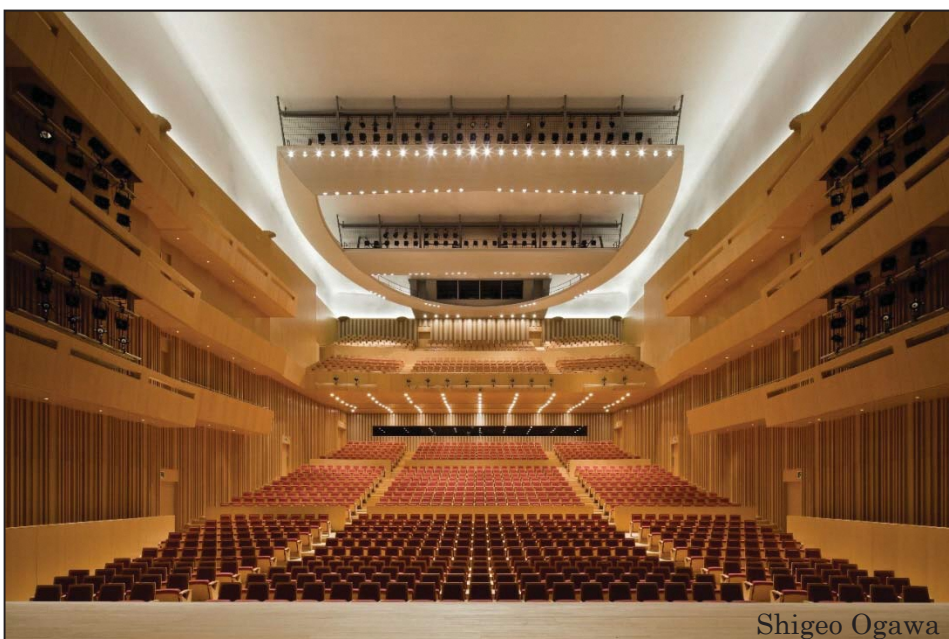
大ホールは、大空間を必要とすることから、建物構造上、最上階に配置します。ただし、地上階からのアクセスがしやすい利用者動線を考慮するとともに、地上階バックヤードからの大型の搬入搬出用エレベーターを備えるなど、利用者・主催者の利便性を確保します。

大ホールのイメージ（サンポートホール高松 大ホール）



出典：サンポートホール高松 ホームページ <https://www.sunport-hall.jp/>

大ホールのイメージ（静岡市清水文化会館マリナート 大ホール）

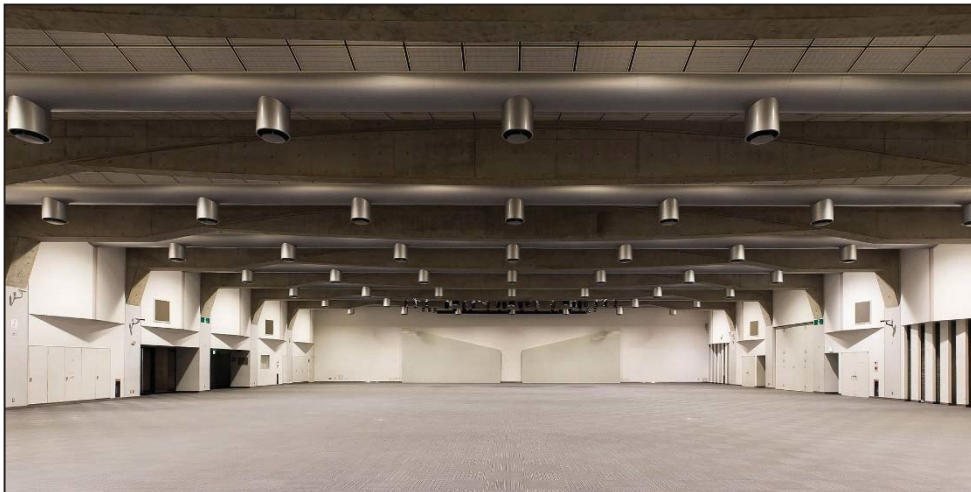


出典：静岡市清水文化会館マリナート 資料

(2) イベント・展示ホール機能の配置

イベント・展示ホールは、同一催事における大ホールと連携した利用を考慮し、大ホールと同様に上層階に配置します。なお、大ホールと同様に、地上階からのアクセスがしやすい利用者動線を考慮するとともに、大型の搬入搬出用エレベーターを備えるなど、利用者・主催者の利便性を確保します。

イベント・展示ホールのイメージ（アイテムえひめ 愛媛国際貿易センター 小展示場）



出典:アイテムえひめ 愛媛国際貿易センター ホームページ <https://itemehime.com/>

イベント・展示ホールのイメージ（マイドームおおさか 展示ホール）



出典:マイドームおおさか ホームページ <https://www.mydome.jp/mydomeosaka/>

(3) 練習室・会議室等機能の配置

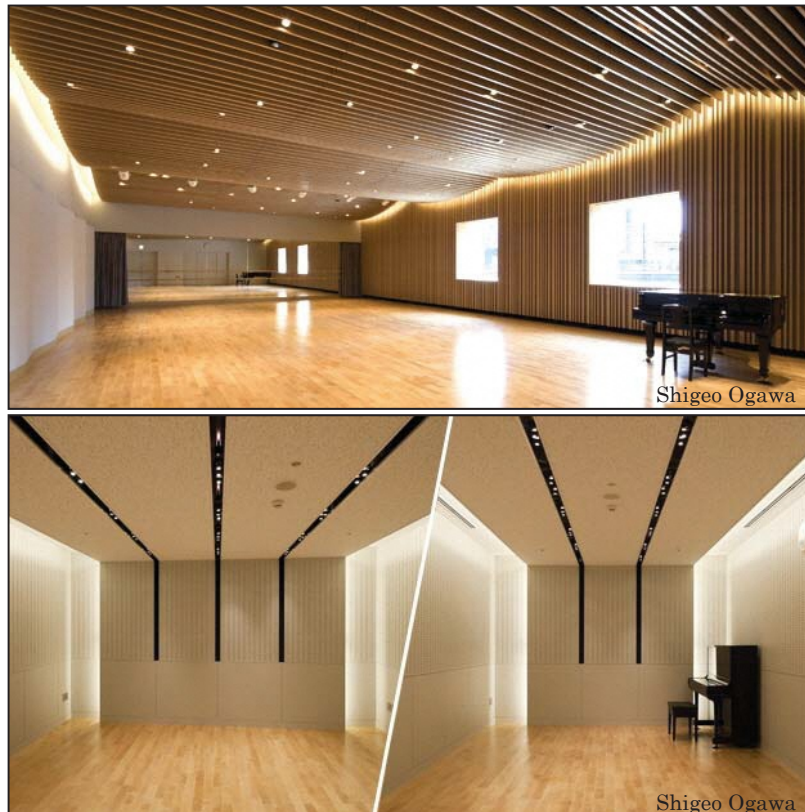
練習室・会議室等は、利用者が気軽に足を運べるよう、基本的には中層階へ配置し、施設全体を利用する催事では、各施設の付帯施設(控室等)としても利用できるよう計画します。

リハーサル室・練習室のイメージ (サンポートホール高松 リハーサル室/練習室)



出典: サンポートホール高松 ホームページ <https://www.sunport-hall.jp/>

リハーサル室・練習室のイメージ (静岡市清水文化会館マリナート リハーサル室/練習室)

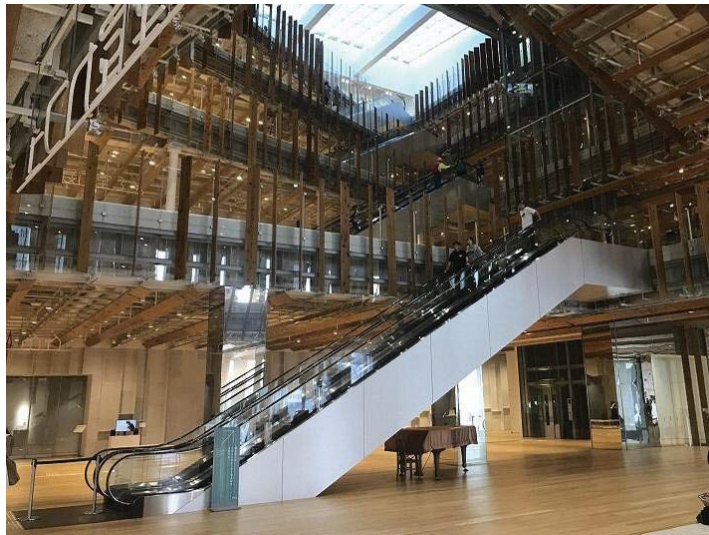


出典: 静岡市清水文化会館マリナート ホームページ <https://www.marinart.jp/>

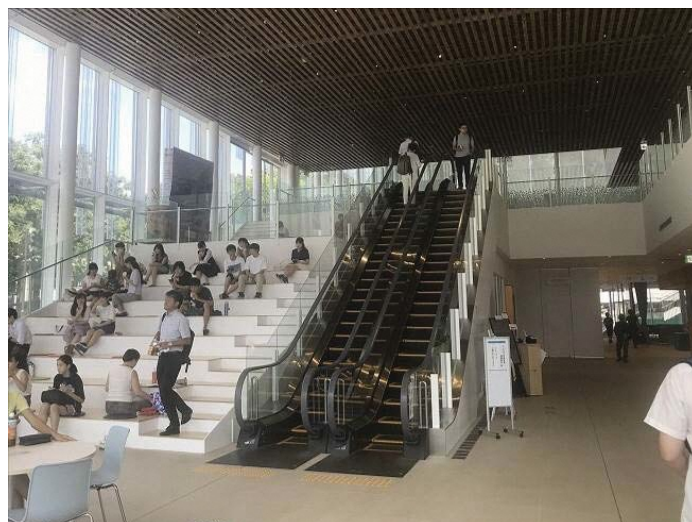
(4) 再開発ビル全体の共用空間の機能

- ①地上階エントランスホールを開放的で華やかな空間構成とし、目的の施設に容易にアクセスできるよう総合案内、主動線を一体的に整備するほか、本施設と商業施設等を分断することなく、人の流れを上層階に導く機能を計画します。
- ②日常的なにぎわいの創出につながるよう、共用空間には、市民が気軽に集い・憩えるスペースを計画するとともに、市民サークル等によるロビーコンサート等の小規模なイベントや、地元クリエイター、アーティスト、子どもの作品等の展示空間としての活用を検討します。
- ③再開発ビル内の催事等に関する情報のほか、市内の各種イベントや観光に関する情報、市政に関する情報、他の公共施設のホールや会議室等の貸館の空き状況等、JR福島駅前の好立地を活かした情報発信機能を検討します。
- ④大ホール等で開催される催事の開演待ちの観客の行列を考慮した動線と、待機できる広さに配慮します。

【 開放的で人の流れを上層階へ導く共用空間のイメージ 】



(TOYAMAキラリ)



(大宮区役所、大宮図書館)

(5) 動線の考え方

大別して以下の3つの動線を、安全性や利便性、バリアフリー等に配慮するとともに、再開発ビルに複合する他の機能の客動線や搬入搬出動線、さらには駅前通り等の回遊性を考慮して計画します。

① 来館者動線

外部から本施設を直接訪れる来館者と、再開発ビル内の他施設を経由して訪れる来館者の両方が想定されることから、分かりやすく誰もがアクセスしやすい動線を計画します。

② 出演者、主催者等関係者動線

大ホールやイベント・展示ホールで開催される催事の出演者等の動きを想定し、来館者動線や搬入搬出動線と交錯しないように配慮します。

③ 搬入搬出動線

公演やイベント等で使用する道具や機材等の動きを想定し、簡便かつ安全な運搬を可能とする動線を計画します。

3 諸室計画

具体的な諸室計画については、今後、基本設計等において具体化していきます。なお、建築基準法・消防法等の関係法令等に関する検討により、本計画の内容と異なる部分が生じる可能性もあります。

(1)大ホールエリア

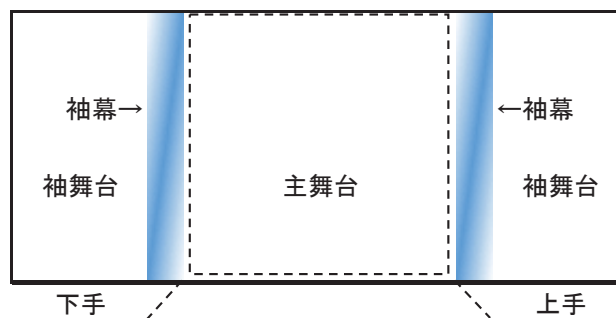
①基本的な考え方

舞台芸術における鑑賞のしやすさと一体感・親近感が得られる空間の創出に努めるなど、劇場専用ホールに匹敵する高いクオリティを確保しながら、多様な交流とにぎわいを創出するという本施設のコンセプトを踏まえ、ポップスやロック、ジャズ等のコンサート、吹奏楽・合唱等の発表、演劇・舞踊等の公演、各種大会、学会、講演会等の幅広い利用に対応できる客席数を有した多機能ホールとします。

②舞台

- a) 多彩な催事に対応できる主舞台(※1)と袖舞台(※2)の広さを備えたプロセニウム(※3)形式の舞台とし、音響反射板(※4)を設置します。
- b) 舞台設備(機構、照明、音響及び映像機能)については基本的な機能を備えるとともに将来の成長性を見据えたものとします。なお、使用頻度を考慮し、奈落(※5)及びオーケストラピット(※6)は計画しないこととします。
- c) 舞台の天井高はバトン等を利用した催事にも対応可能な高さを確保します。

【 舞台イメージ 】



- ※1 主舞台
主に演技等を行う舞台部分で、客席から見える舞台部分。
- ※2 袖舞台
主舞台の両側に設けられている副舞台で、客席から舞台上を見る観客の視線からは袖幕で仕切られており、転換のための大道具や出番を待つ出演者が控える空間。
- ※3 プロセニウム
額縁舞台。舞台と客席がプロセニウム(額縁)で明確に区別されている劇場の方式。オペラやバレエの発展とともに発達した。舞台芸術公演のほか、式典等にも対応しやすく、公立文化施設で多く採用されている。
- ※4 音響反射板
舞台上の生音を効果的に響かせるように設置する反射板。正面反射板、側面反射板、天井反射板で構成される。
- ※5 奈落
主舞台下部に設けられた副舞台に準ずる空間で、迫によって主舞台に登退場するための出演者や大道具が控えるために利用される。
- ※6 オーケストラピット
オペラやバレエ等でオーケストラが演奏するために主舞台と客席の間に設けられた掘り込み。



出典：まつもと市民芸術館ホームページ <https://www.mpac.jp/>



出典：静岡市清水文化会館マリナート ホームページ <https://www.marinart.jp/>

③客席

- a) 客席数は、様々な種類の催事への対応や興行としての採算性を考慮し、1,500席程度とします。一般的には客席数が同じであれば、客席の階層が多くなるほど客席部の横幅を抑えることが可能となるため、音響的に良い効果が得られるとされています。一方で、客席の横幅が狭まり、必要な客席数を確保するために階層が多くなれば、後方の客席とステージとの距離が離れ、視認性が損なわれることとなります。本施設は、舞台芸術等における視認性と良質な音響空間のバランスに配慮して計画します。なお、客席の一部使用等、催事の種類に応じてフレキシブルな活用が可能な機能（客席可変装置等）についても検討します。
- b) 客席は段床に固定椅子席を設け、前方中央部は千鳥(※)配置にするなど、各席からステージが見やすいよう配置や傾斜を考慮して計画します。また、ゆったりと鑑賞ができるよう座席幅や前後間隔に配慮するとともに、客席の椅子は座り心地や耐久性に配慮した仕様とします。

※ 千鳥

互い違いのこと。後列の椅子を前列の椅子と椅子の間に置いて後列の観客の視野を確保する配列のこと。

- c) 床は靴等による衝撃音が生じにくく、壁は反射性・吸音性のバランスのとれた仕上げとします。また、扉は遮音性や外光が入らないよう考慮し二重扉とします。
- d) アプローチや避難経路を考慮した場所に車椅子専用のスペースを数ヶ所用意し、介助者も一緒に鑑賞することができるように計画します。

④ 付属諸室

- a) 舞台の近くに40㎡程度の楽屋を3室程度、20㎡程度の楽屋を4室程度設け、ステージの上手・下手への移動も容易にできるように計画します。
- b) 楽屋付近にはトイレやシャワー室を適切に設置します。
- c) 楽屋の配置は、舞台下手側からの登退場が多いことに配慮した配置とするとともに、主要楽屋は舞台と同じ階に設置し、舞台まで段差なく移動できるように計画します。
- d) 大ホールを使用していないときには、楽屋を会議室等として利用できるような計画とすることも検討します。

⑤ その他

- a) 大ホールホワイエは、一時的に多人数が出入りすることに配慮した広さを確保し、高齢者、子ども、障がい者等の利用に配慮します。
- b) イベント・展示ホール利用者動線との交錯による混雑を避けられるよう、適切に動線を確保します。
- c) 大ホールを使用していないときは、大ホールホワイエを市民の日常的な交流の場として活用することを検討します。

(2) イベント・展示ホールエリア

① 基本的な考え方

展示会や見本市だけでなく、物産展、フリーマーケット、コミックマーケット等の即売会、資格試験、さらには学会・学術会議で開催されるポスターセッション等の様々なイベントに対応できるように音響や照明等の必要な設備を備え、多目的に利用できる施設とします。

- a) 平土間(※)の無柱空間とし、イベント・展示ホールホワイエと合わせ概ね1,500㎡程度を確保します。

※ 平土間 段差のない平らな床の空間のこと。

- b) 天井高を2層分とし、大型スクリーンや吊物(※)等を設置できるように計画します。

※ 吊物 吊物バトンに吊り込んだ大道具の総称。照明・音響器具等を含むこともある。

- c) 移動間仕切りにより、分割での利用が可能となるように計画します。
- d) 大ホール利用者動線との交錯による混雑を避けられるよう、適切に動線を確保します。
- e) イベント・展示ホールを使用していないときは、イベント・展示ホールホワイエを市民の日常的な交流の場として活用することを検討します。

(3) 練習室・会議室等エリア

- a) 練習室・会議室等エリアは、可能な限り共用空間と一体的、かつ開放的に計画し、市民が気軽に利用できるとともに、活動の様子が伺える設えとします。
- b) リハーサル室は350～400㎡程度を1室とし、移動間仕切により分割での利用も検討します。
- c) スタジオ(練習室)は、40㎡程度を2室程度とします。
- d) リハーサル室・スタジオ(練習室)は、防音性に配慮し、会議室としても使用します。

【 活動の様子が伺える設えのイメージ 】



(塩尻市えんぱーく)会議室



(長野市芸術館)練習室

(4) バックヤード

- a) 大ホール用倉庫(舞台備品、音響器具、照明器具等の収容を想定)をできる限り舞台に近い位置に計画します。
- b) イベント・展示ホール用倉庫(会議室用テーブル、椅子、演台等の収容を想定)を計画します。
- c) 荷捌スペースは、ホール毎に11トントラックの入庫が可能なものとし、それぞれの搬入搬出作業が混乱しないよう十分なスペースを確保します。また、ウイングボディ(※)タイプに対応できる高さを確保し、夜間作業や雨天時の作業に配慮します。

※ ウイングボディ

荷物の積み下ろしがしやすいように、ボディの両側が開く車両。

- d) 大ホールとイベント・展示ホールが上層階への配置となることから、地上階から大型の搬入搬出用エレベーターを各ホールに1機ずつ設置し、搬入搬出作業が互いに支障なく円滑にできるように計画します。

(5) その他

- a) トイレについては、施設利用者数に応じ適切に計画し、特に、女子トイレは十分な数を用意します。
- b) 事務室は、本施設全体の管理をしやすい位置に配置し、利用受付、相談等での対応に必要なスペースを設けます。

第5章 期待される効果等及び概算事業費等

1 目標稼働率と目標利用者数

本市の既存施設の利用機会の逸失状況や他都市の類似施設の利用実態等を参考にするとともに、積極的な催事等の誘致活動や行政催事での利用、加えて、地元企業、市民団体等による積極的なイベントの開催等を考慮し、本施設の目標稼働率(※1)を大ホール約80%、イベント・展示ホール約65%、目標利用者数(※2)を年間約32万人と設定します。

なお、目標稼働率等については、基本設計や社会情勢の変動等を踏まえ、今後、策定を予定している管理運営計画等において必要に応じ見直しを行うものとします。また、単に目標の達成だけでなく、貸館利用者以外の来訪者も気軽に立ち寄ることができるなど、多くの来館者でにぎわう施設を目指します。

※1 開館日数を他類似施設の平均的な開館日数である約300日/年と仮定し、施設機能毎に「利用日数/開館日数」として算出します。なお、午前・午後・夜間の利用区分のうち1区分でも利用されれば1日分の利用日数として扱うこととします。

※2 目標利用者数は、貸館利用者の人数であり、それ以外の施設来館者数は含みません。

2 期待される効果

(1)文化芸術の振興と生涯学習の推進

音楽や演劇、舞台の鑑賞等、市民が様々な文化芸術に触れる機会や、日頃の文化活動・生涯学習活動の成果等を発表する機会が拡充されます。

(2)新たなにぎわいの創出と中心市街地の活性化

新幹線停車駅前に立地するコンベンション施設としては、東北最大級の規模を誇ることになることから、これまでは開催が困難であった規模の学会や大会、コンサート、グルメイベント等の開催により新たなにぎわいの創出が期待されます。また、誰もが本施設に気軽に立ち寄り、日常的に利用することで、まちなかに人が集い、中心市街地活性化へとつながる好循環が生まれます。

(3)広域的な交流の創出

JR福島駅前というアクセス性の高い立地条件を活かし、福島市のみならず近隣市町村も含めた広域的な拠点として多様な交流を創出します。

(4)経済波及効果

MICE 開催による経済波及効果測定のための簡易測定モデル(観光庁)を用い、目標利用者数に基づき算出した本施設の経済波及効果を年間約21～32億円と見込みます。また、本施設の立地を契機とする中心市街地への新規出店や新たな事業展開等による経済効果も期待されます。

3 概算事業費等

本施設は、福島駅東口地区市街地再開発事業により整備された建物の一部を取得することにより整備することから、再開発事業の仕組みを踏まえた事業費を想定する必要があります。

(1)再開発事業の概要

市街地再開発事業とは、都市再開発法に基づき、土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図るため、市街地の老朽建築物等が密集している地区等において、細分化された敷地の統合、不燃化された共同建築物の建築、公園、広場、街路等の公共施設の整備等を行う事業です。

福島駅東口地区市街地再開発事業は再々開発事業で、昭和40年代に市街地再開発事業が実施された地区にその周辺の低・未利用地等を含めた地区を対象として、都市機能の更新と高次都市機能の集積を図るために建物の建て替え等を再び実施する事業です。市街地再開発事業では、保有する従前の敷地や建築物の権利(所有権等)を、同額の再開発建築物の区分所有権に置き換える「権利変換」という手法を用いて建築物の整備が行われます。従前の権利より従後の権利を多く保有したい場合(増床)、または従前の権利を保有していない場合は、従後の床価額に該当する費用を支払い、建築物の区分所有権(保留床)を取得することになります。

【福島駅東口地区市街地再開発事業の概要】

計画地	福島県福島市栄町及び早稲町の各一部
再開発面積	約 2.0ha
建築敷地面積	約 13,200 m ²
用途地域	商業地域
容積率	最高限度 700% 、最低限度 200%
建蔽率	最高限度 80%
建築面積	最低限度 200 m ²
壁面の位置の制限	2.0m
高度利用地区	あり
防火地域	あり
日影規制	なし
前面道路	北側 県道 福島停車場線 幅員 20 m (通称:福島駅前通り) 南側 主要地方道 福島・吾妻・裏磐梯線 幅員 40 m (都市計画道路 中央幹線) 西側 主要地方道 福島・飯坂線 幅員 22 m (都市計画道路 栄町大笹生線)

<p>施設計画</p>	<p>開発コンセプト 官民共創による「県都ふくしま」にふさわしい『持続性のあるにぎわい』拠点づくり～南東北の交通結節点と駅前立地を生かした広域交流空間の形成～</p> <p>主な用途</p> <p>【公共施設】 福島駅前交流・集客拠点施設（コンベンション・交流機能）</p> <p>【民間施設】 商業、業務（オフィス）、ホテル（バンケット機能付）、住居（分譲マンション）、駐車場（自走式）</p>
-------------	---



(2) 概算事業費

本施設は、市街地再開発事業により整備された建物の一部(本施設部分の床)を、市が保留床として取得することを想定しているため、概算事業費は、市街地再開発事業において算出される保留床取得額(※)になります。

保留床取得額に関しては、今後の市街地再開発事業の設計、工事等の事業計画の進捗に伴い算出される概算整備費を受けて、本市の将来的な財政運営への影響も見据え、本基本計画との整合性を十分精査するものとします。ただし、国土交通省が示す労務費単価の上昇や、資材費の高騰等による建設費の変動等の要因により、変動していく可能性があります。

なお、本施設の想定面積である約13,000㎡をもとに、他市施設の建設工事費等の実績を参考にした場合、保留床取得額は約150億円(共用部分の按分額及び備品購入費は含まない)となります。

また、保留床取得費の財源として、国庫補助金や有利な地方債の活用を検討し、実質的な市の負担軽減を図ります。

※ 保留床取得額とは、施設の建設費だけでなく、以下のような施設の整備に必要な経費の一部を含め、施行者から保留床として買い取るために必要な費用です。

主な経費	経費に含まれる主な項目
調査設計計画費	事業計画作成費/測量費/地盤調査費/建築設計費/ 権利変換計画作成費 等
工事費	既存建物解体・撤去費/施設建設費(建築工事費、各種設備工事費) /外構工事費 等
補償費	用地補償費/建物補償費/借家人補償費/営業補償費/ 工作物補償費 等
その他経費	借入金利子/事務費 等

第6章 管理運営の方向性

1 管理運営の基本方針

本施設のコネプトを実現するため、次の方針により管理運営を行います。

(1) 施設利用者の利便性・満足度を高める管理運営

施設利用者の利便性・満足度を高めるため、適切な利用時間・利用料金・予約方法等を設定します。利用料金については、例えば利用が少ない時期や時間帯を割引するなどの工夫により、利用率を高めるほか、コスト負担が多くなる夜間を割高に設定するなど、採算性も考慮した料金設定を検討し、最終的には条例により定めます。

また、予約方法については、学術会議等の全館利用への支障や、音楽イベント等による音漏れの関連等、利用者の利便性への配慮として、施設側で催事の管理調整等が行える方法とします。

(2) 市民の文化活動を促進する管理運営

市民文化活動の促進に寄与し、文化芸術の振興を図るため、様々な音楽や舞台芸術等を提供することで、市民がそれらに気軽に触れることができる機会を創出します。

また、施設内に整備されるホールや各種練習室等を市民団体や各種サークル、学生等による文化活動や創造・創作、発表・展示の場として活用を図り、施設利用者や鑑賞者の育成を促進します。

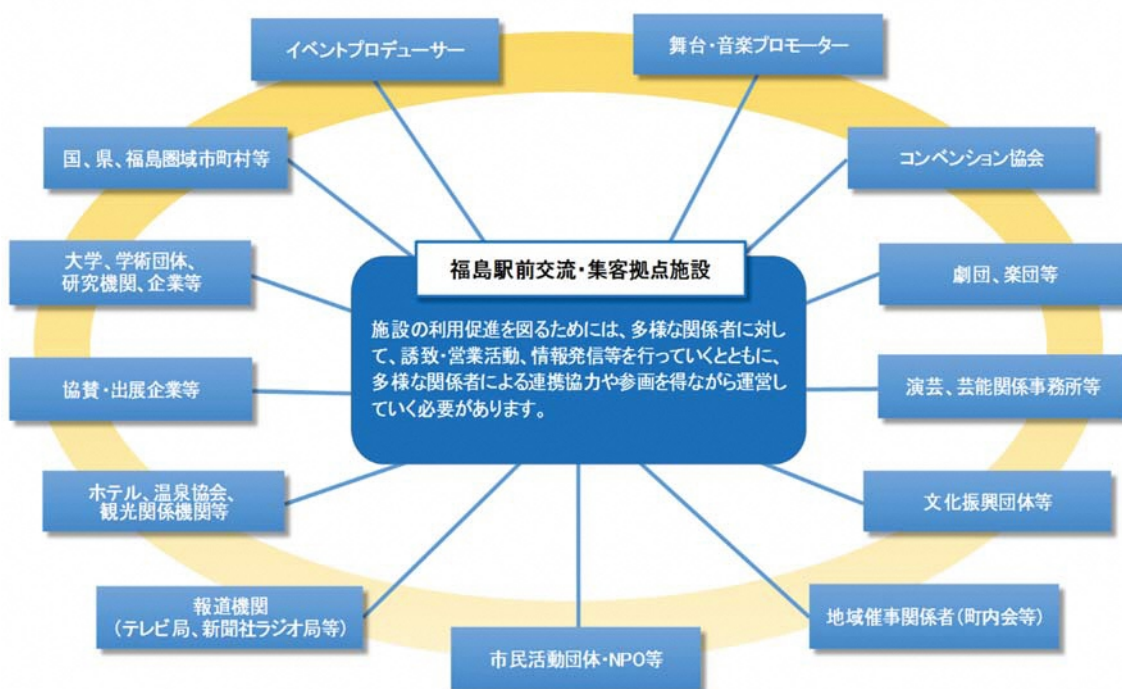
(3) 市民の日常的な利用を促進する管理運営

活動の様子が外に伝わり、誰もが集い・参加しやすく、新たな出会いや活動のきっかけとなる仕掛けづくりに取り組みます。また、特定の目的がなくても、誰もが気軽に立ち寄って、自由な時間を過ごせる「開かれた場」となる運営を目指します。

(4) 施設の利用を促進する管理運営

学術会議やイベント等の誘致により、本施設の利用を促進します。効果的・効率的な誘致を行うため、本市の強みである大学や産業の集積、交通アクセスの優位性や観光資源を十分に活かしながら、本施設と再開発ビル内に整備されるバンケットやホテル、さらには、市内他施設や温泉地等の受け入れ関係者に加え、地元大学やイベント主催者等との連携強化を図ります。

また、官民連携手法により、サービス水準が高く、効率的な管理運営を行う必要があることから、行政が担うべき責任を踏まえつつ、指定管理者制度等の民間事業者のノウハウの活用を基本に検討します。

【 多様な関係者による協力・参画のイメージ 】


2 組織体制

本施設は、「市民活動の拠点」「コンベンションの推進」「文化芸術の振興」という多くの役割を担う施設です。質の高い施設サービスや市民の創造的活動の支援、音楽・舞台芸術のプロデュース、コンベンションやイベント誘致のための豊富な人脈とネットワーク、戦略的な広報や企画制作、照明や音響の専門性の高い技術等が必要となります。現時点では概ね下記の業務が想定されるところであり、これらの多様な業務に適切に対応するための組織体制について、総合プロデューサー等の配置も含め検討を進めます。

業務区分	業務内容
総務	総務、労務、財務、経理 等
施設維持	施設設備の保守、清掃衛生、営繕 等
渉外誘致	コンサート、舞踊、イベント、学会、大会、市民サークル等の発表会等の催事誘致、営業活動 等
事業計画	事業計画立案、文化事業の企画・実施 等
広報宣伝	広報誌等の発行、チラシやポスター等の作成・配布、ホームページ作成・更新・メンテナンス 等
顧客サービス	施設利用団体支援、チケット販売 等
舞台技術	照明、音響、舞台操作、利用者への技術的助言 等
その他	予約・利用の受付、案内、接客 等

3 管理運営費

本施設の想定面積である約13,000㎡をもとに、他都市のコンベンション施設や文化ホール施設の管理運営費を参考にした場合、本施設の管理運営費は年間約4億円となります。(各種事業費は含まない)

本施設のコンセプトを実現していくためには、一定の経費の支出(持続的なにぎわい創出へ向けた投資、文化を活かしたまちづくりへの投資)が必要となります。

そのためには、使用料収入や利用者の利便性が向上する収益事業による収入を高めるよう努めるとともに、助成金等の外部からの資金獲得に努める必要があります。

(1)収入の考え方

①使用料収入の確保

使用料収入は、収入の大きな柱です。受益者負担の考え方に基づく適切な使用料の設定のほか、施設の利用促進に向けた営業活動を積極的に行うこと等により、使用料収入の確保を図ります。また、あわせて市民が利用しやすい料金体系や料金設定についても検討していきます。

②外部からの資金の確保

事業活動を継続的に実施できるよう、公的な助成金や補助金の獲得に努めるほか、企業からの協賛金やスポンサー等の獲得に向けて積極的に活動を行います。

(2)支出の考え方

①事業費

本市の中心市街地におけるにぎわい創出の拠点施設としてふさわしい文化振興やまちづくりに寄与する事業を展開していくための経費です。これらの事業については、費用対効果はもちろん長期的な成果等を十分に検討した上で実施します。

②柔軟性の高い組織体制

施設を運営するために必要とされる専門的な人材を配置するとともに、施設として柔軟に対応できる人員が確保された組織体制とする必要があります。

③効果的かつ効率的な維持管理の実践

施設の維持管理費には、文化振興施設としての様々な機構を維持するための定期的な設備メンテナンス費や舞台関係保守点検費が含まれます。また設計、施工、開館後の管理運営までを総合的にとらえ、効果的かつ効率的な保全や運営を実践し、ライフサイクルコストの縮減を目指していきます。

④複合化された施設としての必要経費

本施設は、市街地再開発事業で整備される施設の一部となることから、単独施設と異なり、共用部分の管理運営等を行う管理組合等の組織とともに施設管理を行うため、共益費、修繕等に向けた積立費、再開発施設全体での広報・宣伝経費、イベント開催費等の経費が発生することが想定されます。

第7章 本施設の効果的な活用

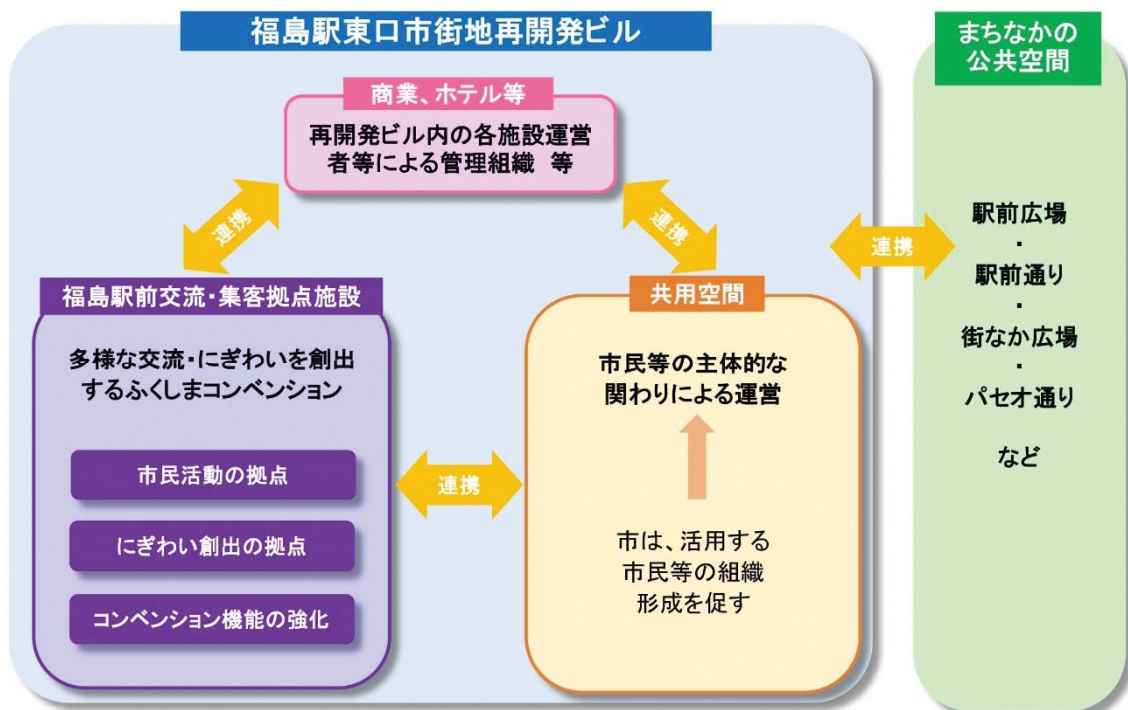
まち全体のにぎわいを創出するため、本施設と再開発ビル内に整備される共用空間や駅前広場・駅前通り・街なか広場等のまちなか公共空間との連携によるイベントの開催等を検討するとともに、本施設の来館者が中心市街地を回遊する仕掛け等、本施設の効果的な利活用について取り組みます。

また、全国の再開発事業を契機としたエリアマネジメント(※)事業の取組事例を参考としながら、再開発ビルを構成する関係者や地域、市民との連携により快適で魅力あふれる中心市街地の形成を目指します。

※ エリアマネジメント

地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取組。「良好な環境や地域の価値を維持・向上」には、快適で魅力に富む環境の創出や美しい街並みの形成、資産価値の保全・増進等に加えて、人を惹きつけるブランド力の形成や安全・安心な地域づくり、良好なコミュニティの形成、地域の伝統・文化の継承等、ソフトな領域のものも含む。

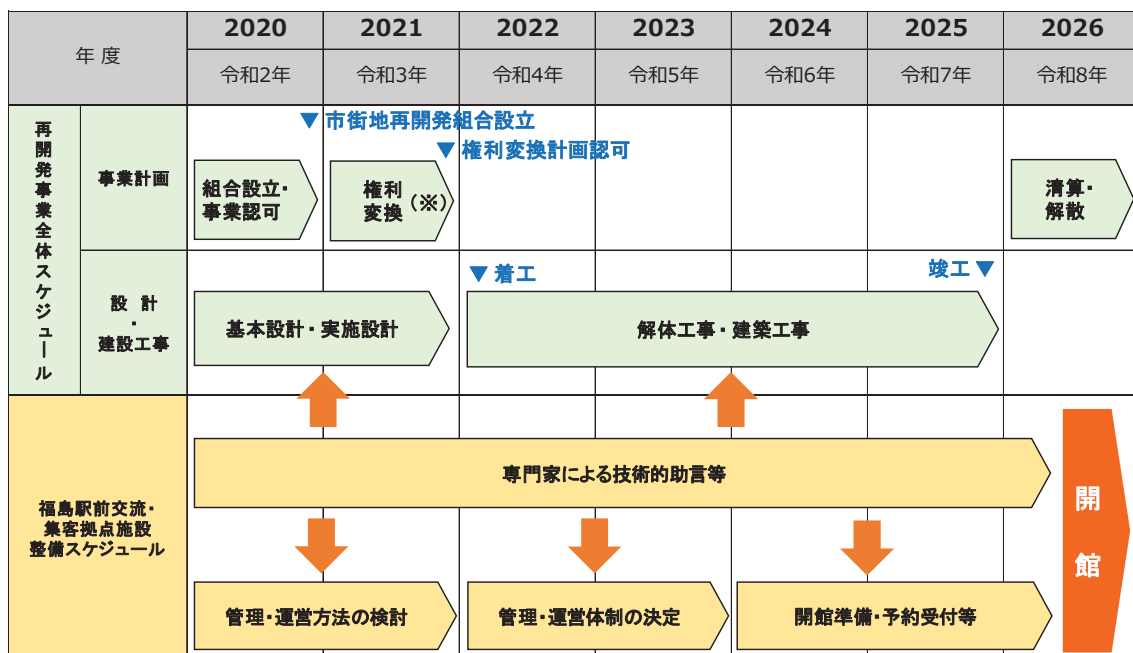
【 にぎわいを中心市街地に広げる取組のイメージ 】



第8章 事業スケジュール

令和8年度の開館(供用開始)までのスケジュールは以下を想定しています。

本施設は、一般的な公共建築物に比べ、舞台機構、音響設備、照明設備等多くの特殊な設備を備えた施設です。そのため、専門家による技術的助言を得ながら、開館後の運営方針を見据えて、事業主体である再開発事業者が行う設計・施工に積極的に関わっていきます。



※ 権利変換

各権利者の従前資産の価額に対応し、等価で従後の再開発ビルの床の一部に資産を置き換えること。

福島駅前交流・集客拠点施設整備基本計画 資料編

目 次

1	福島駅前交流・集客拠点施設整備基本計画策定委員会	1
2	市民懇談会の開催状況	7
3	催事主催関係団体等へのヒアリング結果	8
4	客席可変装置の検討	14
5	奈落・迫の検討	14
6	搬出入用エレベーターの検討	15
7	近隣自治体の状況	16
8	福島圏域11市町村における広域連携	17

1 福島駅前交流・集客拠点施設整備基本計画策定委員会

(1) 委員名簿

分野	所属等	氏名 (敬称省略)	備考
学識経験者 (まちづくり)	早稲田大学 研究院教授	佐藤 滋	委員長
学識経験者 (舞台芸術施設)	日本大学 名誉教授	本杉 省三	副委員長
有識者(商工団体) 地元商店街等	福島駅前通り商店街振興組合 理事長	大関 宏之	
有識者(金融)	(株)日本政策投資銀行 東北支店次長	門田 敦嗣	
有識者(MICE)	福島商工会議所 副会頭	後藤 忠久	
公募	公募	小林 静香	
有識者(市民活動)	NPO PLUS 代表	齋藤 美佐	
有識者(文化芸術)	福島市文化団体連絡協議会 副会長	三瓶 章	
有識者(女性活動)	福島市男女共同参画人材養成 講座 修了生 (Sapaan Thai,F-mam 代表)	竹田 有理	
有識者(コンベンション施設 運営・誘致)	仙台観光国際協会 事業部長	中村 芳朗	
学識経験者(行政学、 都市・地域政策)	福島大学行政政策学類 准教授	西田 奈保子	
公募	公募	山崎 由美	
有識者(MICE)	福島市観光コンベンション協会 事務局長	吉田 秀政	

※委員長、副委員長以外の委員の方は、五十音順で表記させていただいております。

※敬称は省略させていただいております。

(2) 検討経過

回	開催日	内 容
第 1 回	平成 31 年 3 月 20 日	<ul style="list-style-type: none">• 委員長及び副委員長選出• 委員会の役割と検討課題等について• 福島駅東口地区市街地再開発事業(仮称)について• 今後の進め方について
第 2 回	令和元年 5 月 29 日	<ul style="list-style-type: none">• 施設コンセプト(案)、基本的な方向性(案)について• 施設の機能・規模について
第 3 回	7 月 16 日	<ul style="list-style-type: none">• 施設のコンセプト(案)について• 施設の機能・規模について• 施設運営に関する今後の検討事項について
第 4 回	10 月 4 日	<ul style="list-style-type: none">• 市民懇談会の開催結果について• 建物全体計画(案)について• 施設の運営・管理の方向性について• 施設の効果的な活用によるにぎわいづくりについて
第 5 回	令和 2 年 1 月 23 日	<ul style="list-style-type: none">• 施設機能の配置方針(案)について• 基本計画書(素案)について
第 6 回	2 月 19 日	<ul style="list-style-type: none">• 基本計画書(素案)について

(3)委員会における委員の主な意見

回	主な意見
第1回	<p>1. コンセプト・ターゲットについて</p> <ul style="list-style-type: none">●ターゲットの設定が重要である。●県立医科大学に隣接、駅前立地、ホテル併設は大きな強みであり、医学系の学会等を中心に考えても良いのではないか。●周辺地域の競合施設も考慮し、需要獲得のための戦略が必要。●文化芸術はこれまでの概念だけでなく、まちづくり等と一緒に考えることが必要。●駅前通りにあるので、市民が日常的に利用しやすい施設にして欲しい。●市外からの誘客も重要だが、市民に馴染みのある場所として利用できるかが重要。●学生や高齢者等幅広い世代の方に平日も使いやすい工夫が必要。●イベントに活用しやすいスペースにして欲しい。 <p>2. 施設機能・施設規模について</p> <ul style="list-style-type: none">●仮に一室で1,500～3,000人を収容するには2,000～3,000㎡の広さが必要である。また施設の構成としては、大会議場、分科会・展示会場も必要。●医学系学会と研究会を同時開催する場合に必要な展示場面積の検討が必要。●地元住民が主導して、常時、賑わいを創出できる施設機能の検討が必要。 <p>3. 運営方法について</p> <ul style="list-style-type: none">●市民利用や平日利用を高める工夫をし、平日と休日の平準化を図る必要がある。●市民利用は、利用料も安くなると思うが、今後税収が減少する中で、税負担のあり方を含めた運営方法の検討が必要。
第2回	<p>1. コンセプト・ターゲットについて</p> <ul style="list-style-type: none">●施設コンセプトについて、原案の3つの柱はどれも重要。●賑わい創出のためには、建物内で賑わいを終わらせるのではなく、まち全体に広げることが必要。●未来像を踏まえた形で計画を立案することが重要。●催事回数が多く、かつ収支が成り立つ施設にしてほしい。●コンベンション施設は、365日フル稼働する施設ではないので、特定の目的がなくても気軽に利用できる、あるいは日常的に市民活動が活発に行われることが必要。 <p>2. 施設機能・施設規模について</p> <ul style="list-style-type: none">●市民活動における創造・創作という視点が必要。●医学系学会では、大ホールは最低1,500席程度必要。●中途半端なものではなく、何か1つの価値を高めていく必要がある。●運用イメージを持った検討が必要。●使いやすさを考えた場合、展示ホールの上階設置は検討が必要。

	<ul style="list-style-type: none"> ●供給型の視点ではなく、需要の視点から考えることが重要。 <p>3. 運営方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●施設整備だけでなく、コンベンションビューローのようなバックアップも重要。 ●人口減少に伴う将来の福島や稼働率が低い公共施設を踏まえた効率的な施設運営を前提とした議論が必要。 ●施設自体に人を集める機能があるだけでなく、賑わいを創出する企画をどう作っていくかも重要。
<p>第3回</p>	<p>1. 施設機能・施設規模について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大ホールや展示ホールなどが上層階への設置を想定されているが、路面とのつながり、広場のような共用空間からのアクセス性、荷物の搬入搬出の利便性・メンテナンス性・コスト等に十分配慮してほしい。 ●駅前の賑わいを創出するという役割を重視すれば、1階の集客機能が重要なので、技術的な検討も含め、創意工夫してほしい。 ●市民が日常的に、自由に利用できる中間的なスペースがあるとより利用しやすいと思う。 ●イニシャル・ランニングコスト、採算性、将来の人口ビジョンや広域的視点、周辺施設の集客実績等の観点から、総合的に適切な規模を判断し、賑わいがまち全体に広がっていくようにしてほしい。 ●低層階の商業フロア等の使われ方も含め、将来的にこの施設を使い続けられるかという点について、もっと案を出してほしい。 ●大ホールをフレキシブルに縮小して使うなど、多様な市民利用ができるような施設づくりとすることも考えられる。 ●ホールの下に会議室等を配置すると、音漏れ等の影響が心配される。 <p>2. 運営方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●この施設で、どのような活動をどのくらいの費用をかけて行っていくかが重要。市民の文化活動推進のため、施設側からのアクションも必要。 ●ホールは鑑賞用だけでなく、様々な役割を果たせると感じる。幅広いニーズを掘り起こしてほしい。 ●福島市の地理的な位置は強みである反面、弱みでもあることを認識し、仙台・郡山・首都圏から人を呼び込むための検討が必要。 ●共用部分のコストが多く発生する場合は、非収益部分をどのように稼働させて収入に結び付けていくのか、工夫が必要。 ●施設の稼働率を上げるためにはジャンルの異なるイベントを開催することなどが有効である。 ●コンベンションビューローなどのソフトの仕組みも含めて検討してほしい。 ●整備してからが始まりなので、市民や地元経済界や行政も含めて、本施設をどう活かしていくか、どう努力して実現していくかを含めて、基本計画としてまとめるべき。

<p>第4回</p>	<p>1. 運営方法等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●施設の運営体制について、市外から福島市にユーザーを誘致できる力量がある者に任せるべき。(民間会社等 1 社に任せるか、複数の民間会社で構成された組織に任せるかなどを決めていくことが必要) ●指定管理者等の施設運営者のみが施設や利用者の情報を管理する体制は望ましくない。市と関係機関、施設運営者が情報を交換・共有し、誘致戦略を協議できる体制とすべき。民間に任せきりにするのではなく、きちんと行政が関与する意識が重要。 ●適正な施設規模を想定する場合、コンベンションの需要や興行についてもマーケティングを含め調査・検討が必要。 ●運営体制については、指定管理者制度ありきではなく、行政の施設運営への関与について様々な意見を聞きながら検討してほしい。 ●施設コンセプトを実現するための視点として、特に効率的で持続可能な運営を図ることを重視すべき。 ●エリア全体で市民や来訪者にとって魅力的な場所とすることが重要であり、共用空間の果たす役割が大きいことから、その利活用について様々な関係者が連携を図ることが重要。 ●市民が他人ごとではなく自分ごとで施設を利用していく考えが重要。大学生等の若い人の視点をまちづくりに活用していくことは有効である。 ●今後も市民の声を聴いていく機会を設けてほしい。 ●本事業がまちづくりの一環であることを忘れず、イメージの共有や情報の受発信を丁寧にしていくことが必要。 ●大ホールの客席数を変動させることは可能であるが、持続可能な規模設定については、客席数だけを重視するべきではなく、練習室等を含めた施設全体の活動イメージを考える必要がある。運営についても、運営者がどのような組織に属しているかが重要であり、早めに運営者を決めていく必要がある。 ●賑わいづくりは施設単体で行うものではなく、再開発に携わる人を含め、まち全体として盛り上げていく必要がある。
<p>第5回</p>	<p>1. 基本計画素案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●施設のコンセプトに関連し、交流人口だけでなく関係人口の拡大についても表現すべき。 ●人や車両の動線イメージについてもできる限り表現すべき。 ●利用しやすいホール設計をするとともに、高齢者への配慮や、十分な女子トイレの確保など配慮が必要。 ●子育て中の方が利用するためにも、授乳室やおむつ交換スペースの確保が必要。 ●防災に関する考え方についても表現すべき。 ●福島らしい景観の創出についても表現すべき。 ●再開発事業の手法により本施設を複合ビル内に整備する意義、メリット等について明記すべき。

	<ul style="list-style-type: none"> ●目標利用者数等は、施設の詳細や管理運営の方向性がこれから決まっていくことから、柔軟に設定していくことがよいのではないか。 ●施設の役割は鑑賞や発表だけでなく、地域活性化のために何かを生み出していくことが強く求められている。「市民が創造する」施設にふさわしいものとなるよう、大きな位置づけが必要。
<p>第6回</p>	<p>1. 基本計画素案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●リハーサル室では、小規模なコンサートや演劇などの公演等でも活用できるようにしてほしい。 ●バックヤードの荷捌きスペースは、大ホールと展示ホールとの催事が重複する場合に、互いに支障がないよう検討してほしい。 ●管理運営の組織体制については非常に重要なので、十分に検討してほしい。 ●どのような役割を運営事業者が担えば、より効率的に施設を運営できるかという点を考える必要があり、例えばサウンディング調査等の実施など、民間の知恵やノウハウをどう取り込むか、最善の運営体制となるよう検討してほしい。 ●多施設・多機能であることは、複合する商業機能や公共機能の双方にとってよいことなので、アクセスのしやすさは、今後建物全体の設計に反映してほしい。 ●市民が利用しやすい料金体系や料金設定は重要なので、今後細部まで考えて設定してほしい。 ●情報化推進の観点から、将来的な技術革新にも対応できるようにしてほしい。 ●今後も経済情勢や価値観が変わっていくと思われるため、様々な人にヒアリングをして、将来的な見通しをたてたうえで、設計や管理運営計画に反映されることを望む。

2 市民懇談会の開催状況

日時	令和元年9月1日 13:30～15:00
開催場所	福島市アオウゼ(AOZ)多目的ホール
参加者	福島市民 30名
概要	開催当時の基本計画検討内容について事務局説明後、質疑応答、意見交換

参加者の主な意見	
ハード面について	<ul style="list-style-type: none"> ●大ホールの舞台には奈落や、天井の吊物など大きな空間が必要となる。多機能なホールとするためにも、しっかりと専門家の意見に基づき検討する必要がある。 ●医療関係者より、福島で学会を開催したいが、開催できる場所がないため、他市で開催した経過を聞いた。医学関係の学会について、福島市で開催できる機能が必要である。 ●新幹線停車駅前に適切な規模のコンベンションホールがあるのは武器になる。ある程度の規模の施設規模を確保し、賑わい創出を実現してほしい。 ●単に大きい施設ではなく、本当に市民が日常的に集う、使える、楽しめるような施設をつくる必要がある。ホールの規模を含めて、市民の意見をきちんと反映してほしい。 ●多くの催事に対応するため、最低でも1,500席程度のホールが必要。雇用の面からもMICE機能は必要である。
ソフト面について	<ul style="list-style-type: none"> ●東日本大震災を経験し、舞台・音楽・文化的なものが、心の癒しに必要と感じた。商業機能だけでなく、文化的なものも大事ではないか。 ●アフターコンベンションの対応が必要。例えば大規模なパーティーに対応できるようなバンケット機能なども重要ではないか。 ●他自治体にみられるように、「福島らしさ」が伝わる具体的なテーマを決めてほしい。 ●施設規模の近いパルセいいざかは今後どのように活用するのか。また、若い世代の意見も反映できるようにしてほしい。

3 催事主催関係団体等へのヒアリング結果

複数のMICE総合企画・運営サービス提供事業者等、音楽・イベントプロモーター等、大学関係者等に対し、ヒアリングを行った結果について、下記のとおりまとめました。

(1)MICE 総合企画・運営サービス提供事業者等

施設の機能及び規模について
施設規模 <ul style="list-style-type: none">●運営者の視点では、国際会議・学会等を複数施設で行うよりも、2,000～3,000人を収容できる施設にてワンストップで開催できるとよい。5,000人規模であれば、徒歩圏内で複数施設を使った開催も考えられる。●開館を予定する時期の人口、特に施設のメインユーザーと思われる生産年齢人口に基づいて、施設規模を検討すべき。
大ホール機能 <ul style="list-style-type: none">●貸館で利用されるケースは限られるため、興行以外も含め多目的に対応する施設のほうが、利用の選択肢が広がる。●望ましい施設の規模は、利用目的やジャンルによって異なるため、一概には言えない。
イベント・展示ホール機能 <ul style="list-style-type: none">●医療系の学会の場合、付随するポスターセッションや展示スペースとして、最低でも1,000㎡がほしい。ホワイエも、空間を仕切ることができれば、展示スペースや受付スペースにもなるので、広く確保できると良い。●機械等の展示会が想定される場合は、床の耐荷重に配慮が必要。●大規模となる場合、分割利用の対応が必要(この場合、防音対策は必須となる。)
練習室・会議室機能 <ul style="list-style-type: none">●会議室は学会の本部会、分科会等の複数種別利用があるため、規模に多様性を持たせる方が良い(例えば、200㎡、100㎡、50㎡等)。●分割利用の場合、二重構造パーティション等の防音対策は必須となる。
共用空間の機能 等 <ul style="list-style-type: none">●催事がない場合、ホワイエをパブリックスペースとして開放することは考えられる。ただし、催事の開催時は、閉じて使えるようにする必要がある。なお、催事時に動線が交錯しないよう利用者のみが使える動線計画・ゾーニング配置にする必要がある。また、死角が生じる等の管理面での留意が必要。●コストはかかるが、フロアの防音・防振を施すことで、開催可能な催事種別が増加し、機会損失が減少する。

動線計画について

- 複合施設において、ホールが上層階に配置される場合、ホールの搬入搬出用エレベーターと他(例えば商業用)の搬入搬出用エレベーターは分けるほうがよい。特にケータリング事業者が入ってのパーティー開催時などは、ホールの搬出入用エレベーターと来場者エレベーターとを分けることが望ましい。
- 展示会を開催する場合、複数台のトラックを使用するので、十分な荷捌きスペースを確保する必要がある。また、催事の種別により、部品や設備等を一時移動して保管する需要も生じるため、バックヤードの広さを確保することも重要。
- ホテルやバンケットとの動線を十分に考慮してほしい。

ポテンシャル(強み・弱み)、誘致について

会議・企業研修

- 福島市が誘致した企業を対象にセールスを行い、関東圏から本社社員を招く会議や、企業研修会等の開催において、新たな施設を使ってもらうことも良い戦略。
- 国際会議や医学系の学術会議は頻繁に開催されるものではないため、企業の会議・イベント(数百人規模の入社説明会、株主総会等)や市民利用ができるとよい。

大会、学術会議等

- 大学等のコンベンション主催者が地元にあるメリットを生かすべき。
- コンベンションにとって、アクセス性が重要であるため、新幹線停車駅前の立地は強みとを感じる。
- 福島市で開催が多く見込まれるものとしては、各種団体、企業等における各地方支部会や東北・北海道の7道・県のブロック大会(数百～千人程度の規模で、件数も多い)等が想定される。ただし、ブロック大会等は県ごとに順番に持ち回りで開催形態が多いため、毎年度の安定的な開催には繋がらない。
- 東北他都市には2,000人以上の規模を収容できるコンベンション会場があるが、稼働率が高く、春や秋の繁忙期は特に機会損失が生じている。東北開催の意義がある中規模・大規模な催事の需要は一定程度存在し、十分な規模の施設を整備することで、福島市で開催される可能性が想定される。

イベント、展示会等

- 平日は、BtoB のイベントやビジネス系のイベントミーティング、各種交流会、地元企業の活動(商談会、名刺交換会、リクルート、株主総会等)等の利用が想定される。
- 展示会の場合、ビジネスさえあれば、毎年同じ場所で開催が可能であり、行事化される。誘致のためには、福島市だからこそ開催する意味がある分野を見つけることが重要である。

その他催事

- 若者に浸透している e-sports(PC ゲームなどによる電子競技)等の新たな需要への対応も有効である。
- 特定の分野(サブカルチャー等)に興味を持つ人たちは多く、その分野は多岐にわたる。イベント参加への意欲が高く、平日のイベントでも参加者が多いことが強みである。

周辺との連携

- 施設の管理運営者と行政、MICE推進組織等の関係者による誘致活動が必要になる。管理運営者は貸館対応・リピート利用への営業が主となる。行政、MICE推進組織は、助成事業の実施や誘致営業活動が主となる。
- ホールの収容人数に対して、相応の飲食店、ホテル等も必要。人を集めても宿泊が出来なければ誘致が困難。また、ホテルは、安価なものから高級なものまで幅があると良い。
- 稼働率だけで施設を評価するのではなく、宿泊・食事・買い物等をトータルした地域全体の経済効果を重視してほしい。
- 福島市は飯坂温泉など電車で行ける温泉街があり、コンパクトに連携しておもてなしの対応ができる点は強み。
- 東北中央自動車道開通により、会津・郡山・いわきと並び、米沢・福島・相馬のラインができ、今後、福島市は周辺地域と連携して、魅力の更なる向上も期待できる。

(2) 音楽・イベントプロモーター等

施設の機能及び規模について

大ホール

- 地方であれば、1,500～2,000席程度がよいのではないかと。内容によるが、1,000席の場合、興行としては難しい可能性がある。
- 1回の催事に係る費用は客席数に関わらず同じなので、興行は座席数が大きいほど有利である。
- 一方で、2,000席規模の会場を満席にできるアーティストは限られている。また、開催する催事の規模や舞台の視認性重視等により、2,000席規模以下の会場を優先に検討する場合もある。
- 東北エリアでは、1,200～1,500席程度の会場も興行開催回数は多い。
- 座席数が多くても、ステージが狭いと大型イベントは開催できない(東京の会場で設置する大道具と同じものを地方でも使うため。)

イベント・展示ホール

- 最近では平土間でコンサートを開催する場合も多い。可動式(収納式)の椅子も考えられる。しかし、段床式の方が、来場客にとっては観賞し易い。

動線計画について

- 搬入搬出作業を考慮すると上層階の施設は不利であるが、搬入搬出機能をしっかりと確保すれば上層階の施設でも使用されるだろう。
- 大型のトラックが複数台乗り入れられる搬出入ヤードを確保することが望ましい。

ポテンシャル(強み・弱み)、誘致について

- ポップス、ロックのアーティストは、人口の多い仙台市を会場に選択する可能性が高い。一方で演歌歌手のツアーなど、小まめに会場を回る歌手は、福島市で開催する可能性もある。
- 福島市は東京からの日帰りエリアになるので、座席数によっては福島市で開催する可能性もある。

(3)大学関係者等

開催地・会場の選定

- 様々な学会があり、規模もそれぞれ。多くの場合は年に2回(年次大会、シンポジウム各1回)開催される。また、全国持ち回りのケースが多い。
- 開催都市は、学会長の所属大学等による影響が大きい。
- 例年の開催実績により、参加者数を推測し、その人数に適切な会場を決定する。会場選定する際には会場の規模、ホテルの有無、駅からの時間が重視されている。また、wi-fi 環境の整備が重要である。

大ホール

- 参加者全員が集まることができる大きいホールがあると望ましい。それが難しい場合、モニター等で近くの部屋に中継できることが必要である。

イベント・展示ホール

- ポスターセッションのスペースの確保が重要。学会開催中は常時掲示するのが一般的で、ポスター展示と企業展示を同じ部屋で行うことも可能である。

会議室等

- 福島市ではセミナー等の分科会で使える施設が不足している。
- 学会では、少人数の議論も考えられるため、50～100人程度の会議室が多いとよい。

ポテンシャル(強み・弱み)、誘致について


- 郊外の大学は駅から遠いため、大学を会場として学会を開催する場合、参加者は駅からの交通費もかかる。駅前の会場では、交通アクセスが良好で、利便性も高い点が魅力である。車でのアクセス(駐車場)についても考慮してほしい。
- 懇親会等の会場として飲食ができる場があると望ましい。また、ケータリングサービスを利用できると便利。
- 学会と同じ日に他のイベント(例えばコンサートや結婚式等)が重なると、ホテルが取れなくなるため、日程変更せざるをえない場合がある。会場とホテルが提携しているなど、会場と同時にホテルの予約を取れると開催しやすい。

(4)大学生等

- 著名なアーティストを呼べる規模の大ホールがよい。
- 大学の卒業式、入学式ができる規模の施設がよい。
- 例えば宝塚や劇団四季などの舞台も福島市で鑑賞できたら嬉しい。
- プロスポーツのパブリックビューイングをできるとよい。(プロ野球やサッカー、ラグビーなど)
- ボルダリングやスケートボードなどインドアのスポーツができるとよい。
- eスポーツ、アニメイベント、サブカルチャーイベントを開催できるとよい。
- 福島の美味しい食べ物を一堂に集めたグルメイベントが開催できるとよい。
- 例えば壁が全面ホワイトボードで使えたり、映像を流せたり、飲食も可能なミーティング室を気軽に借りられるとよい。
- 学生が自習できるスペースや読書などが楽しめる空間があると良い。

4 客席可変装置の検討

客席可変装置とは、2階以上の客席を有する段床式ホールにおいて、催事の種類や参加者数に応じて、一部(主に上層階席)の客席区域を仕切り、有効客席数を変動させる装置であり、「幕・カーテン式」「シャッター・壁・天井一部昇降式」「天井全体昇降式」等に分類できます。どのタイプでも、音楽や演劇等への多目的対応が可能ですが、残響等への影響が多少は見られます。また、その性能や効果、費用等はホールの形状や客席数等の各種条件により変動するため、導入については、今後設計段階において総合的な検討を行います。以下は、導入事例を調査した概要です。

	A:幕・カーテン	B:シャッター・壁・天井一部昇降	C:天井全体昇降
概要	天井内等に幕を設置し、電動で昇降させる方式	天井内のシャッター・壁もしくは天井の一部を電動で昇降させる方式	天井面全体を電動で昇降させる方式
利用目的等	<ul style="list-style-type: none"> ・空席感の緩和 ・仕切幕は常時利用(仕切幕が掛かる状態が通常の仕様) ・空間を小さくすることによる観客が鑑賞に集中しやすい環境や一体感の創出 ・利用席数に応じた利用料金の減額の対応 ※ 客席可変設備が装備されていない施設であっても、①全席利用、②1～2階席利用、③1階席利用、④客席利用無のそれぞれで利用料金を設定する事例あり		
主な特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・幕やカーテンの素材等により、音響への影響が発生する場合があります ・ホールの雰囲気や損ねない素材の選定が重要 	<ul style="list-style-type: none"> ・壁等の仕様により、天井昇降後もホールの格式や音響性能等を維持できる ・天井懐に壁等を収納するための高さが必要 ・故障時等はホール全体が使えなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模な可変機構が必要となる ・天井昇降後もホールの格式や音響性能等を維持できる ・可変機構設置のため、幕・カーテンに比べて施設の高さが必要 ・故障時等はホール全体が使えなくなる
コスト (イニシャル・ランニング)	低  高		
設置事例の 利用実態	調査対象施設では、年間1～2回の施設があった一方で、年間100回程度の施設もあったが、平均すると年間30～50回程度の利用状況となっている。		

5 奈落・迫の検討

奈落とは、ホールの舞台の下にある空間を指します。迫り出し装置(迫)があるほか、役者や道具運搬の通路にもなっています。様々な演出に対応ができ、パフォーマンスの多様性にも寄与するものですが、本施設のホールは4階以上の階層に整備する予定であることから、設置する場合には、下の階に整備される機能との調整等も必要となります。

奈落や迫の有無によって、施設運営や利用率向上にどの程度の影響が生じるかを把握するため、本市や他自治体で導入している施設の調査を実施しました。その結果、奈落・迫は、演出用設備(合唱・ミュージカル・オーケストラ・歌舞伎・舞踊の演出等)としての利用よりも、むしろ、倉庫や収納スペース、荷物運搬動線としての役割のほうが大きいことや、維持管理コストが大きい一方で、イベントの主催者等が会場を選定する際の理由として挙げられにくいことが分かりました。このことからすれば、倉庫や収納スペースを確保できている場合には、奈落・迫を設置する必要性は必ずしも高くないと考えられます。

6 搬出入用エレベーターの検討

他都市における上層階にホールが配置された類似施設の搬入搬出用エレベーターの状況について下記のとおり調査しました。

施設名称	エレベーターサイズ					
	間口(m)	奥行(m)	高さ(m)	積載荷重(t)		
文化・芸術ホール	八王子市民会館 大ホール 最大2,021席	2.7	7.5	3.0	5.1	
	北九州芸術劇場 大ホール 1,269席	2.7	7.5	3.0	5.1	
		中劇場 700席	6.0	2.5	2.9	4.5
		小劇場 96~216席	2.5	3.6	2.3	5.05
	KAAT神奈川芸術劇場 ホール 1,200席	8.8	2.8	2.8	6.5	
		大スタジオ 約220席	5.5	2.5	2.8	3.5
	札幌文化芸術劇場hitaru 劇場 2,302席 (2台)	9.5	3.0	3.15	10.0	
4.3		3.3	2.75	4.0		
イベント・展示ホール	せんがいメディアテーク ギャラリー4200 約1,095㎡	3.0	4.0	3.0	3.0	
	朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター メインホール 1,133㎡ (2台)	2.75	6.0	2.7	4.15	
		2.2	2.9	2.7	3.35	
	別府国際コンベンションセンター B-con Plaza レセプションホール 896㎡	1.7	2.3	2.1	1.5	
	山口県国際総合センター 海峡メッセ下関 イベントホール 1,105㎡	2.1	3.0	2.1	2.0	

文化・芸術ホールの搬入搬出用エレベーターは、持ち込む荷物のサイズが大きいことや、一度に積み込む荷物が多くなる傾向があることから、間口や奥行きに加え、積載荷重も大きく確保されています。

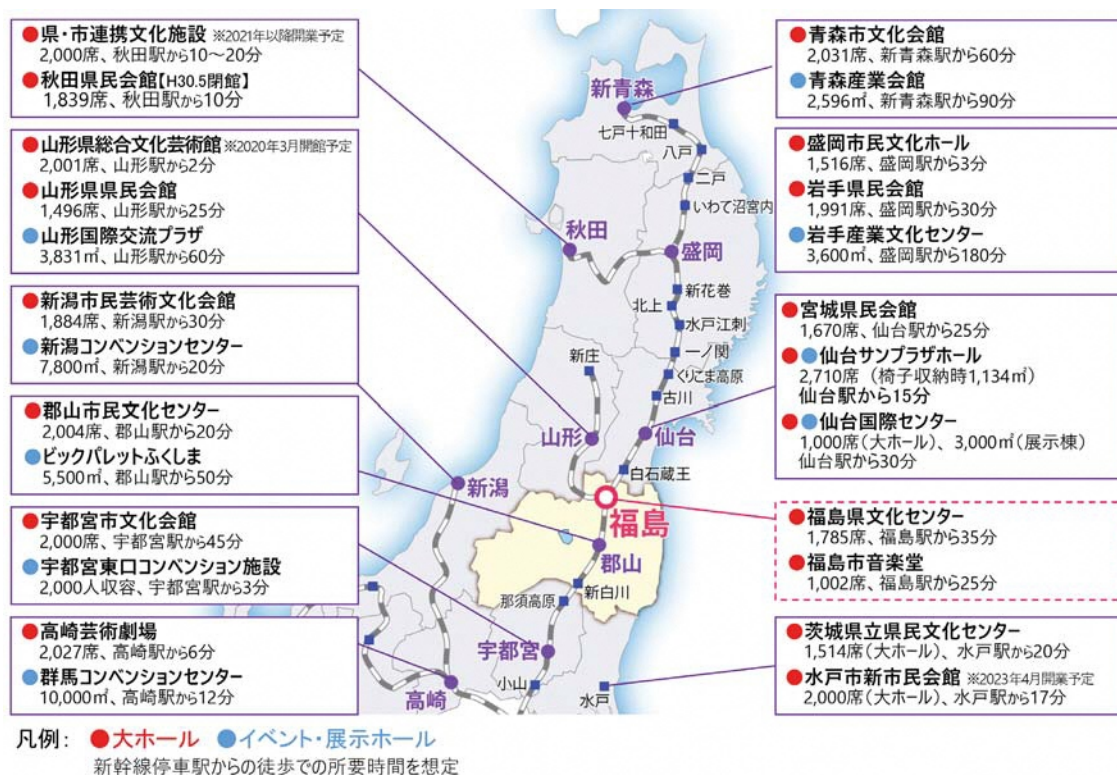
一方、イベント・展示ホールの搬入搬出用エレベーターは、文化・芸術ホールと比較するとサイズや積載荷重は小さい傾向が見られました。一度に多くの荷物を積み込むことよりも、複数の利用団体等が、入れ替わり搬入搬出作業を行うことに対応する必要があると考えられます。

本施設は、大ホールとイベント・展示ホールの2つのホールを整備することから、各ホールにそれぞれ1台ずつ搬入搬出用エレベーターを設置することとします。他施設の状況を参考に、必要十分なサイズについて検討するとともに、両ホールの搬入搬出作業が互いに支障なく円滑に行えるような配置となるよう十分に検討を行います。

7 近隣自治体の状況

近隣では、秋田市、山形市、水戸市、宇都宮市、高崎市等で文化芸術ホールやコンベンション施設の整備が進められているなど、交流人口拡大や文化振興を図る取組が活発になっており、都市間競争が激化しています。

人口減少・少子高齢化が進行する中、今後、更に競争環境が厳しくなることが想定されますが、近隣の多くのホール施設は、新幹線停車駅からやや距離があることから、新幹線停車駅前の立地を本施設の強みにしながら、利用者には選ばれる施設を目指していく必要があります。



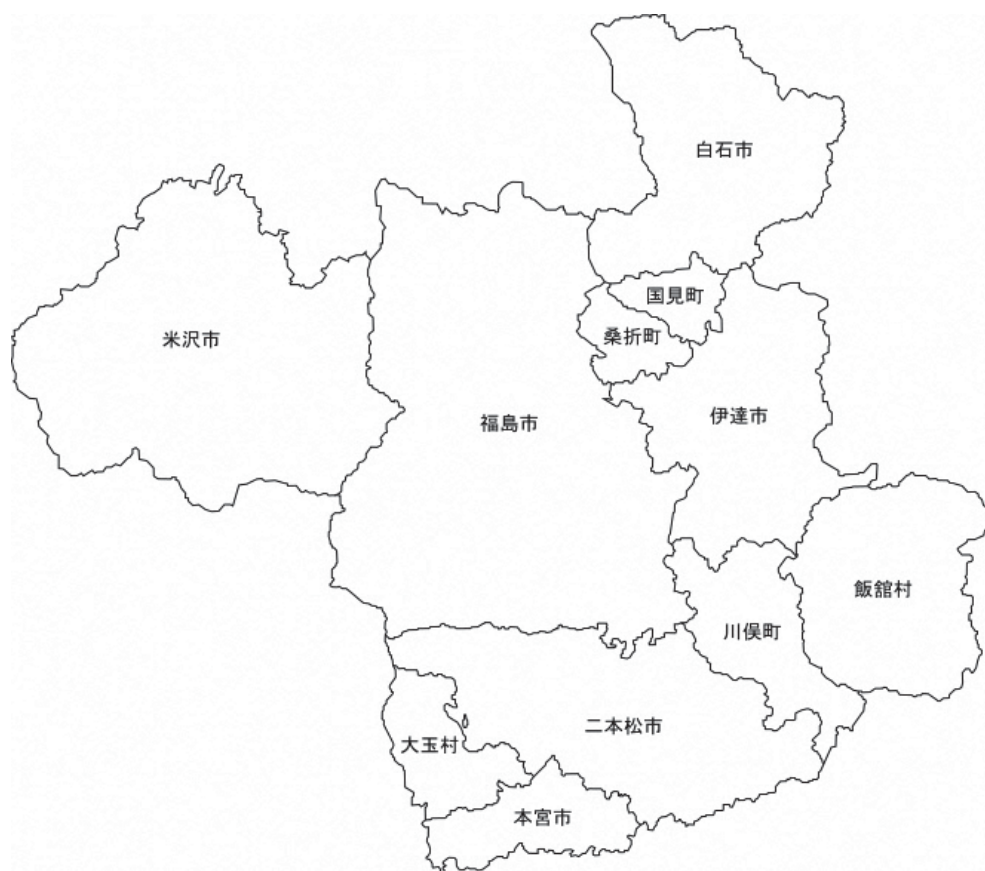
8 福島圏域11市町村における広域連携

平成30年11月19日に、福島圏域11市町村により広域連携を進める「福島圏域連携推進協議会」を設立しました。

参画するのは、福島市、二本松市、伊達市、本宮市、宮城県白石市、桑折町、国見町、川俣町、大玉村、飯館村、山形県米沢市(オブザーバー)の11市町村です。

持続的な発展と地域の活性化を図ることを目的に、人口減少・少子高齢化に伴う諸課題に対し、近隣市町村が連携して、相互に補完し合いながら事業を推進しています。

本施設の整備を進めるにあたって、福島圏域内にある公共施設機能や都市機能等との連携を図りながら、圏域全体の活性化に資するものとなるよう努めます。

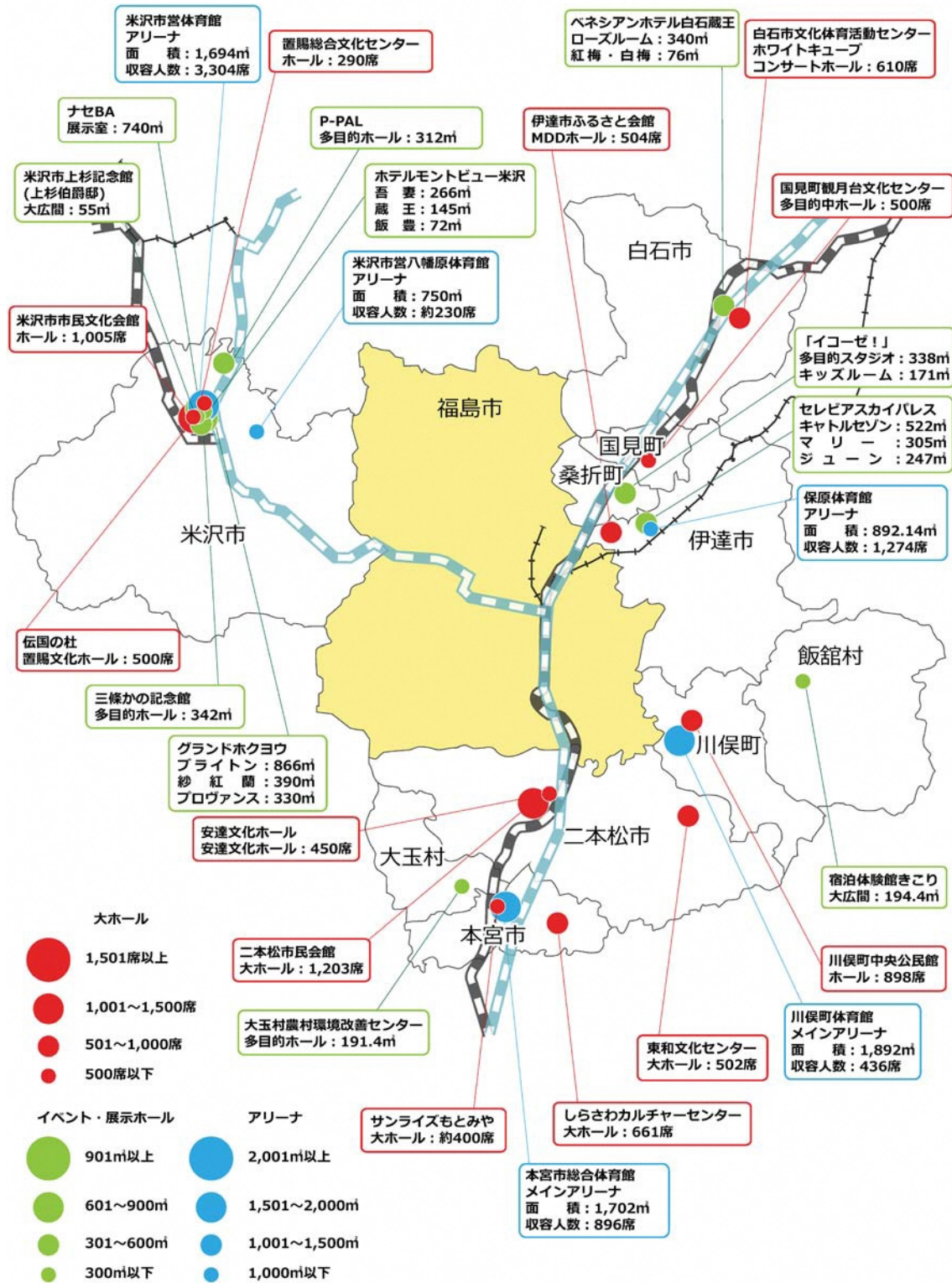


福島圏域のデータ

人口:約60万人

面積:約2,818km²

【福島圏域におけるホール等の状況(福島市を除く)】



福島駅前交流・集客拠点施設整備基本計画

令和2年（2020年）3月策定



作成

福島市政策調整部政策調整課

問い合わせ

福島市商工観光部観光コンベンション推進室

TEL 024-572-5719 〒960-8601 福島市五老内町 3-1